

異世界召喚 身勝手に
呼ばれて身勝手に捨て
られたので隠居する外
伝集

ジト民逆脚屋

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したもので
す。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を
超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

『異世界召喚 身勝手に呼ばれて身勝手に捨てられたので隠居したい』から、謎多きキヤ
ラ竜胆さん他、過去やらの短編集です。

目次

竜胆さんの華麗なる一日	——	——
嘗ての幸せ	——	——
僕の世界	——	——
華やかさ	——	——
竜胆さん	——	——
ビタービーンズラブソーデイー	——	——
何処かの教会 敬虔なる咎人	——	——
弓聖	——	——
何処かで	——	——
ニック&リドリー	——	——
新寺陸	——	——
62	55	47
40	33	26
26	18	11
11	1	1

イツチ奮闘記

助けてください

ファツ?!

旅路

竜胆さんの華麗なる一日

呻き声が聞こえる。まるで、地獄の釜の底に焦げ付いた、亡者の様な声が紙や羊皮紙等々の記録媒体が、所狭しと積み上げられた部屋に唸つていた。

「あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、！ 終、わ、ら、ね、え、え、……！」

喉が渴ききつてているのか、机に突つ伏した姿から漏れ出る声は、嗄れ割れていた。

「あ、あ、あ、あ、う、う、あ、あ、あ、……」

唸り呻き、身を悶えさせる。だが、その手に持ったペンは、確かにインクを染み込ませ、机に広げられた紙に文字を羅列していく。

ただひたすらに、ペンが紙や羊皮紙にインクを文字の形に染み込ませ、その纖維をペン先が削る音が、声の主の耳に入り込んでいく。

「……今日で何徹目だっけ？」

不意に、声の主は突つ伏した顔上げ、そんな事を口にした。

机の引出しを探り、手鏡を取り出す。

酷い隈だ。歌舞伎の隈取りの様に、暗く目が窪んで見える。しかもその癖、その奥にある両目は、ひどく鋭く獰猛な輝きを放つていて、見るからに危険人物が、手鏡に写つ

ていた。

「おおう……、こりやヒドイ」

朝日を背に、女は今までの記憶を掘り返す。

一日二日三日四日……

振り返り、疲れきった顔に太い筋の汗を一つ垂らす。人間とは、最長で何日寝ずに活動出来たか。

この異世界に召喚され、魔力やらなんやらで肉体に補整が付いたからといって、これ以上の連続徹夜は危険だろう。

そう思い、竜胆は瘦躯を起こし、長い髪からフケを搔き出す。手指が頭皮を引っ搔く動きに合わせて、白い粉が磨かれた黒檀の天板に降り積もっていく。

「あああああ……、女として終わつてね？」私

この世界で、この役目に就いてから何度目か解らない問いを、誰にでもなく口にする。普段ならここまで仕事が詰まる事は無いが、今は緊急と秘匿の両方が、一辺に畳み掛けてきた。

「リンドウ様、起きておられますか？」

「おう、起きてる起きてる」

部屋の扉をノックする音と、竜胆を呼ぶ声に返事をすれば、静静とメイドが部屋に入

る。

「はあ、リンドウ様。湯浴みの支度は整つております」

「お？ 以心伝心？」

「御部屋に籠られて一週間、着替えもしておられないでしよう」

「あく、超頭痒い」

乱暴に頭を搔く。メイドが溜め息を吐けば、竜胆は目立つ八重歯を剥き出しにして笑う。

この目立つ八重歯で、初めの頃は吸血鬼か何かと間違えられたりしたが、今となつては留守にする事の多い屋敷を任せられる人材となつた。

「……御部屋の掃除は如何致しましょう？」

「んあ？ ああ、掃除は無し。つーか、見たらヤバイもんもあるから、出てつた出てつた

「畏まりました」

気付いていたのか、机に積み上げられた書類には目もくれず、メイドは部屋から去つていく。

レミエーレ王国の機密や、竜胆が一人極秘裏に進めている計画、国の予算案。その一端が、竜胆邸のこの部屋に詰め込まれている。

万が一見られても、竜胆にはそう問題は無いが、他の貴族や王族、政治家には問題あ

りだ。

最悪、秘密裏に処理されるか、一生幽閉なんて事もあり得る。

竜胆としては、それは困る。竜胆邸で働いている者達は、全員が竜胆自身が引き抜いてきた所謂“竜胆のお気に入り”だ。

「さつてと、風呂風呂」

仮に、“竜胆のお気に入り”に手を出せばどうなるか。

過去にとある貴族が、止まる事無く出世していく竜胆を妬み、彼女の“お気に入り”的一人に傷を付けた。

その結果、竜胆は政財界で“魔女”“魔王”と呼ばれる様になつた。

竜胆の行つた報復は単純、その貴族の資産を残らず奪い去つた。金貨一枚、麦粒一粒残さず、綺麗に己のものとして平らげ、ついでとその貴族の汚職の証拠や隠し財産を、民衆へとばら蒔いた。

貴族や政治家達の間に広めれば、その事実をねじ曲げたり、揉み消したり出来ただろう。

だが、竜胆は敢えて民衆へと、怒りの火種を蒔いた。

「おや、リンドウ様。御仕事は宜しいのですか？」

「おうおう、国的には宜しくないけど、竜胆さんには宜しいのだよ」

「それは宜しゆう御座いました」

加えて、その貴族は領地であまり善政を敷いてはいなかつた様だ。竜胆が蒔いた火種は、瞬く間に燃え移り、とうとう国がその貴族を処刑する事態となつた。

「命の洗濯は、大事うつと」

「あ、リンドウ様」

竜胆が適當な鼻歌を歌いながら、浴場へ向かつてゐると、新人のメイドの一人が声を掛けってきた。

「おこう、どつたよ？」

「お客様がお見えに」

「客？」

竜胆が首を傾げ、疲れた頭で今日の来客予定を思い出すが、思い当たるのは一つしかない。だが、その来客は夜だ。今は朝、その来客が来る時間ではない。

さて、一体誰なのかと、竜胆はエントランスまで降り、その来客を目にすると、「ふへ」

八重歯を見せた笑みを浮かべた。

〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃

和泉忠久は、一日の疲れを湯に浸かり癒していた。

嘗ての召喚勇者が建てたという、日本家屋風の屋敷には露天風呂があり、和泉の楽しみは一日の終わりに、これに浸かり一日の疲れを労う事だ。

僅かに張った腕を、解す様に伸ばし、簡易なストレッチを行う。

この世界に呼ばれてから、あまり録な事が無かつたが、それでも衣食住は確保され、仲間の一人による容赦無い手腕により、自分達の立場も確立された。

「ふう……」

湯で温もつた息を吐き、風呂から上がつたら、貴い物の干物を肴に、酒を少し呑むかと、折角なら神野を呼ぶのも悪くないかもと、算段を立てて、和泉が静かな夜を楽しもうとした時、

「よーう、和泉！ 竜胆さんが背中流してやるぜ！」

和泉の静かな夜は、一瞬で崩れ去つた。

「真っ直ぐ、寄り道せず今すぐ帰れ」

「そんなつれない事言うなよ。ほら、ゲストも来てんだぞ？」

「ゲスト？」

和泉家露天風呂の戸を、勢いよく開け放つた竜胆。痩身の彼女が、タオル一枚を纏つた体を横にずらすと、見目麗しい美少年が、タオルで体を隠し立っていた。

「はつはつはつ、見たか。この竜胆さんのお気に入り……！」

「お前な……」

色気、色香とでも言うのか、その少年を見た時、不覚ながら和泉は反応が一瞬遅れた。湯に浸かつたまま、和泉が頭を押さえる仕草をすると、竜胆が少年を伴つて湯に浸かる。

「ああく……、いい湯だな」

「竜胆、あまり派手に遊ぶなど、言つた筈だが？」

「派手の内に入らねえよ」

溜め息を一つ吐き出す。この世界に来てから、一番変わったのは竜胆だ。いや、変わったというより、我慢する事をしなくなつたのが竜胆だ。

彼女と仲の良い者なら、竜胆の性的嗜好を知つている。

「セレ・エルフ、しかもニンフ族とハイ・エルフのハーフ、正直辛抱堪らん……！」

「あ、リンドウ様」

「自分の家でやれ」

生糀の美少年美少女好き。

竜胆は兎に角、美少年美少女に分類される男女を好む。

それは、自分達の世界でも平然と公言していた事だ。そして、この世界にはその性癖を制限する法も無ければ、それを叶える財源も得ている。最早、竜胆を止める手立ては無かつた。

「うへへ、このしつとり滑らかな肌。和泉、部屋貸して」

「帰れ」

少年を抱き寄せると、竜胆は熱を持った吐息を吹き掛ける。それに少年が身を震わせると、竜胆は更に深く少年を搔き抱く。

「竜胆、何をしに来た?」

「何つて、ナニをだよ」

「今すぐ帰れ」

和泉は竜胆の変わらぬ調子に、再び頭を抱える。

この忙しい時期に、この女は何をしているのか。

「まあ、話を聞けって」

「話?」

「結婚式の出し物決めたか?」

「結婚式？ 誰のだ？」

肉食動物を思わせる鋭い八重歯を見せて、竜胆は笑う。その彼女が発した言葉、それに和泉は首を傾げる。

和泉の記憶が定かなら、近い時期に結婚式を挙げる者は居なかつた筈。和泉が考えていると、竜胆は抱き寄せた少年の軀に手指を這わせながら、軽薄な笑みを崩さず言つた。

「山科とグレイさんのだよ」

「初耳だぞ……！ いや待て、そこまで話が進んでいるのか？」

「モチさ。盛大にやるぜい」

「そうか、正道は？」

「神野も当然、出席する」

「そうか」

親友の祝い事に、和泉は仮頂面と呼ばれる顔を僅かに綻ばせる。

グレイ・オーフィリアと神野正道には、山科を巡つて静かな争いがあつた。だが、互いが互いに己の想いを貫き、收まるべき所へ收まつた。
「目出度いな」

「おう」

「ふむ、竜胆。少し良い酒と肴を貰っている。呑むか？」

「お、マジで。部屋借りていいのか？」

「……離れが空いている。あまり汚すなよ」

もう何を言つても無駄だと、和泉は深い溜め息を吐き出した。

竜胆は上気した肌の少年を抱いたまま、八重歯を見せて笑つた。

嘗ての幸せ

穏やかな寝息が聞こえる。

「んう……」

穏やかで静かな寝息は、朝日を吸い込む部屋に転がり、その主は薄いシーツにくるまる。

小さく丸くなつた小柄な体、もし何も知らぬ者が、この様子を見たならば、その誰もが己の目を疑うだろう。

簡素ながら、その家具と調度品の質の高さが窺える寝室。その主が眠りに揺蕩う中、部屋に来客が訪れる。

「シーナ」

均整の取れた長身、細身だが服の上からでも解る鍛えられた肉体。端正な顔立ち、金の髪。理想の美男子がそこに居た。

「ほら、シーナ。起きて」

「……グレイ？」

「ああ、そうだぞ」

シーツにくるまつたシーナを、グレイはそのまま抱き上げた。シーナの細く開かれた目を見詰めると、照れた様に彼の胸に顔を埋めた。

「グレイ」

埋めた顔を擦り付け、猫が己の匂いを付ける様にして、シーナは己を抱き上げるグレイに甘える。シーナの、猫の毛の様に柔らかな髪を撫でると、彼女は嬉しげに目を細めた。

「どうしたんだ？　何時にも増して、甘えるじゃないか」

「ダメ？」

首に手を回し、こちらを優しげに見詰める瞳を見れば、そつと頬を撫でられる。

その心地好い感触に身を任せ、シーナはグレイにされるがまま、彼の腕の中で細めた目を瞑る。

グレイにとつて、シーナは小さく軽い。こうして軽く抱き上げられ、戦場での苛烈な戦い方が嘘の様に思える。

だが、戦場で轡を並べ、共に戦うグレイには分かる。

身の丈を超える特殊な武器を振るい、砲という桁外れな威力で、戦場に雷を降らせる。

「ダメじやないさ。ほら、何をしてほしい？」

「もつと、ギュツとしてほしい」

「いいとも」

ベッドに腰掛け、シーナを膝に乗せる。軽く小さいが、獸欲をそそる肉感的な肢体を、グレイは力を籠めて抱き締める。

毎日、毎晩の様に感じている体温と、体の柔らかさ。密着する温もりは、優しく感じる。

「んー」

筋肉など感じない細腕、肢体。華やかさに乏しい、しかし魅力的な容貌。グレイ・オーフィリアは、オーフィリア家というレミエーレ王国でも有数の名家の当主となる。

華美な裝飾、過度な見栄、過剰な自尊、グレイは日々己に言い寄つてくる他家の婦女子に辟易していた。

グレイの極めて整った容姿、人間性、家柄、全てが夢見がちで、裏で策謀を巡らせる貴族には、極上の餌に見えた。

彼もそれを自覚していて、あまり舞踏会などには顔を見せなかつた。

「シーナ」

容姿に合わず武骨者、それがグレイ・オーフィリア。そんな彼がある日、王宮の庭園で出会つたのがシーナだ。

「なーに?」

「ふふ」

こちらを見る顔、その額をそつと撫でる。目を細めるシーナは、彼女が好きな猫の様で、グレイは思わず喉を撫つてみると、シーナはこそばゆそうに身を丸める。

「グレイ、撫つたい」

「そうなんだ」

「きやつ！」

グレイはシーナを抱いたまま、ベッドに倒れ込む。上質なベッドは、一人分の体重を吸収しきり、ほんの少しの反発で二人を揺らす。

「今日はこのまま寝て過ごそうか？」

二人だけの寝室に、グレイの甘い声音が聞こえる。

シーナはその声が紡ぐ声に頷き、彼の胸に身を寄せる。頬には薄紅が差し、己を撫でる手を、ただ受け入れる。

背に回った腕に、僅かに背筋が強張る。

「グレイが一緒ならいいよ」

「当たり前だろう？」

シーナの唇を啄む様に、グレイは彼女に口付けをする。

数度繰り返し啄み、彼女の瞳が蕩けた頃、グレイはシーナの舌を吸出し、弄ぶ。

突然の事に、微睡む様に啄まれていたシーナが、身を震わせ、手足をバタつかせる。

「ひああ……」

舌、唇と続き、喉から肩へと、グレイの唇が降りていく。小刻みに震える肢体を確りと抱き、己から離れるなど、シーナに教える。

「グレイ……」

「シーナ……」

見詰め合う二人、微笑むと、密着していた距離を更に縮め、二人の距離が重なろうとした時、寝室の外が騒がしくなり始めていた。

それが何なのかと、二人が顔を上げると、寝室の扉が蹴破られる様に、乱暴に開かれた。

「よーう！　お二人さん、盛つてる？」

「……リンドウ」

「……竜胆」

「お？　もしかして、いい雰囲気に入っちゃった感じ？」

長く目立つ八重歯を剥き出しに、濃い隈を残す目の、瘦せた女が妖しく笑っていた。

「帰れ」

「おいおい、山科。久々の休みに、竜胆さんが来てやつたんだ。茶の一杯くらい付き合え

よ

ソファーに腰を下ろす。外は冷えるのか、季節の割りに厚着だが、痩せた竜胆はそれでも細く見える。

実際、竜胆は細い。ある意味、病的とも言える程に、彼女は痩せ細っている。シーナの多くはない友人の一人である麻野と並ぶと、その細さは更に顕著になる。

「竜胆、帰れ」

「なんだよなんだよ、和泉も山科も、私を帰らそようとするな。まさか、私に知られて困る事でも隠してんのか？」

「リンドウ、君に何を隠せるんだ？　あの“賄賂卿”と揶揄されていたウイニアス卿の、不正と汚職を暴き立てた君に」

裸に近くなつていたシーナを、シーツにくるみ抱き寄せて、グレイは竜胆に問うた。

長きに渡り、汚職の証拠、その尻尾すら掴ませなかつた貴族を、竜胆は事も無げに破滅させていた。

「あれは私に、碌な利権を渡さなかつた奴が悪い」

竜胆は口の端を吊り上げ、グレイに答え、欠伸を漏らす。

恥ずかしげも無く、大口を開けて、数秒間欠伸を続けると、懐から一つの紙袋を取り出す。

「見ろよ、山科。ニヤンコドーナツ、下町の出店でやつてた」

「ホント?!」

猫好きのシーナが、竜胆が紙袋から取り出した焼き菓子に、興味を持つ。

「雇用拡大がてらに、私らの世界の菓子やらを広めたんだが、これが中々に上手くいってな。胴元の竜胆さんの懐はウハウハな訳よ」

「竜野が飛び付きそうだな」

「ん？ 竜野なら、止める浜名引き摺つて、屋台巡りしてたぞ。ありや、戦利品持つてこつち来るな」

ひひひと、竜胆が妖しく笑う。そして、また寝室の外が騒がしくなり始めていた。

『椎名ー！ ニヤンコカステラ見つけたー！』

『竜野、ここはオーフィリア家なんだ。竜胆の家じやないから、串焼きは袋に戻せ』

『うつせ！ お前も食えよー！ あ、メイドさん也要る？』

「な？ 時間稼いでやるから、着替えな」

妖しく笑う竜胆が、寝室から廊下へ、声の主二人の元へ行き、また適当な事を言つている。

グレイは隣のシーナを見て、シーナは隣のグレイを見て、おかしそうに笑つた。その笑顔は、本当に幸せそうだった。

僕の世界

「私は、この世界が嫌いだよ。ジョナサン」

あの人は、そう言っていた。誰より良い生活している筈なのに、肋が浮くぐらいに痩せた人は、何時もの吊り上げた笑みを消して、僕にそう言つた。

長く鋭い八重歯を見せて、隈の目立つ目を歪めて、何時も獰猛な笑みを浮かべている。その人から笑みが消えると、瞳には僕しか写つていなかつた。

初めて会つたあの日から、この人、リンドウ様は変わらない。

「ジョナサン、私はこの世界が大嫌いだよ」

変わらず、世界を嫌い続ける。

//////////////////

初めて会つたのは、ある嵐の日。あまりに酷い嵐に、僕が売られた娼館も、早目の店

仕舞いをしようとしていた時、一台の馬車が娼館の前に止まつた。

「よう、この店で一番の子を頼む」

嵐の外を背に、その人は口を吊り上げて笑いながら現れた。

最近流行りだという鳶コート、大昔の召喚勇者が広めたスーツ、貼り付くみたいに窮屈そうなスカートと靡く髪。

嵐を背にした姿はまるで、お伽話に出てくる怪物の様だつた。

「……良いじやん」

僕の顎を摘まんで、その人はそう言つた。隈の目立つ目は、爛々と輝いているのに、何処か危うげで、少し目を離すと消えてしまいそうだつた。

「気に入った。この子買うぜ」

そう言つて、その人は僕を連れて嵐の中へと歩き出した。周りの声も構いなしに、僕を連れ去つた。

「私は龍胆、君は?」

「……ジヨナサン」

「良いね良いね、ますます氣に入つた」

ひひひと、妖しくその人、リンドウ様は笑う。

「さ、今日から君は私のお気に入りだ」

「なにそれ？」

馬車の窓を叩く雨粒が煩いのに、何故かリンドウ様の声だけは、はつきりと聞こえる。それが何故なのか、いまいち分からないけど、多分この人が何かしているんだろうな。この人のよく動く口を見ていると、何故かそう思えた。

「ジョナサンジヨナサン」

「なに？ リンドウ様」

「……んもう、可愛いなあ！」

言つて、するりと膝の上に乗せられ、抱き込まれた。何時もの客とは違う、瘦せて骨の当たる感覚。大丈夫なのかと、少しだけ疑うけど、それを疑つても、僕にどうこう出来る事じやない。

それに、この人が居なくなつても、僕はまた違う人に買われるだけで、結局この世界と僕の世界は、何も変わらないんだ。

「ジョナサン、君はハーフ・エルフだね」

「そうだよ。母さんがニンフで、父さんがエルフ」「セレ・エルフ、これはまた」

言うと、僕を抱く力がほんの少しだけ強くなつた。

擦り付けられる頬は、なぜだか心地よくて、紙とインクの匂いが鼻を擦つた。

これがこの人の世界なのだろう。僕の世界は化粧と香水、饅えた汗と血の嫌な臭い、ボロボロになつても魔法で直される。そんな、汚い世界。

「ジョナサン、着いたよ」

「おつきい」

ひひひと、妖しい笑いが聞こえる。嵐の中に佇む屋敷は、まるでお伽話に出てくる魔女の屋敷の様だった。

「リンドウ様は、どうして僕を買ったの？」

他にも、セレ・エルフは居たのに。

「君の目さ」

そう言うとリンドウ様は、そう返した。

僕を見るその瞳は、嵐の中でもはつきり解るくらいに、爛々と輝いていた。

「君の目は、私と同じだ」

「同じ？」

「そう、同じだよ」

何故か誰も居ない屋敷の中を、二人で歩く。

どうして誰も居ないのか、不思議に思つていると、リンドウ様はまた、ひひひと妖し

く笑う。

「そうか、君は男娼。あまり休日という文化に馴染みはなかつたね」

「誰も居ないの？」

「今この屋敷に居るのは、私と君だけだ」

「そうなんだ」

歩いて歩いて、広い屋敷を歩いて着いたのは、風呂場だった。

広くてキレイな風呂場には、汚れ一つ無かつた。

「まずは裸の付き合いつてね」

いつの間にか、着ているものを全部脱いでいた。この人は多分、今までの人とは違うみたいだ。

〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃

「ジョナサンジョナサン、町に行こう
「よう、ジョナサン。ちょっと来いよ」

「ジョ～ナ～サン、ンフーフ」

この人はあの日から、度々僕を買った。自慢じゃないけど、僕の値段は他のセレ・エルフ達より高い。

あんな凄い屋敷に住んでいても、僕をそんなに買っていると、破産するんじやないかと聞いたけど、誰もがそれは有り得ないと笑った。

どうやら、あの人はとんでもない人だつたらしい。

リンドウ様はこの国でも、一一を争う程に重要で、ものすごいお金持ちらしい。

「ジョ～ナ～サンジョナサン、昼食いに行こう」

そんな人が、こんなに簡単にこんな店に来ていいのか。不思議に思つたけど、誰も見ないふりをしているから、多分大丈夫なんだろう。

「いいよ。どこ行くの？」

「中華、知つてるか？」

「チュウカ？」

「そうかそうか、ジョナサンは中華初体験か」

ひひひと、妖しく笑うリンドウ様が、僕の手を引いて娼館から出る。
外は明るかつた。

〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃

「ジョナサン、世界は綺麗かい？」

リンドウ様は時々、よく分からぬ事を言う。僕の世界に、綺麗なものは無くて、父さんと母さんを殺したこの世界が憎くて仕方ない。

「君の憎しみはよく分かるよ。私もそうさ、身勝手呼ばれて、嘗ての今までを全部奪われた」

爛々と輝く目に、暗く淀んだものが見えた。多分、それがリンドウ様なんだ。

僕を見詰めるリンドウ様を見て、僕は初めてリンドウ様を見た気がした。

「勝利する為に、自分達で呼び出しておいて、結局は勝利する事すら覚束無い。勝手に私らの足を引っ張つて、何かあればそれ見た事かと嘲笑う。笑つちまうよ」

「リンドウ様」

「ねえ、ジョナサン。私はこの世界が嫌いだよ。この世界全てが大嫌いだ。でも、君は好き」

「どうして？」

首を傾げると、頬を擦り寄せてくる。暖かな肌と、柔らかい髪が撫つたくて、少しだけ身を捩ると、何時もの吊り上げた笑みで覗き込んでくる。

「君も同じだからさ。君もこの世界を憎み、そして、……ほんの少しだけ愛している」リンドウ様の話は難しくて、頭の悪い僕にはよく分からない。だけど、リンドウ様が泣いてるのだけは分かった。

「ジョナサン、君は私の側に居てくれる?」

「居るよ。だつて、リンドウ様は僕を買つたんだ」

「そうだね」

僕は世界を嫌つて、ほんの少しだけ愛している変わった人に身請けされた。

そして僕は、世界を知つていく。

華やかさ

華やかさが無い。竜胆とリナシアの二人は、『彼女』を前に頭を悩ませた。

何と言うべきか、悪くないのだが、肝心要の華やかさが皆無なのだ。悪く言えば地味、良く言えば素朴、どう化粧をして着飾つても、『彼女』に華やかさと呼べるものは無かつた。

「……どうするよ?」

「……どう、しましようか?」

リナシアの貴族式化粧術と、竜胆のコーディネート、貴族の社交界で生き抜く為の武装を施しても、どうにも田舎っぽさが抜けない。

素朴な芋っぽさ、質素な可愛らしさ、簡素な美しさ、何と言うか、派手さとは無縁な顔立ち。リナシア・オーフィリアと竜胆は、姿見を前にウキウキとした様子の山科椎名を見ながら、頭を悩ませた。

素材は決して悪くない。ただ、派手さが皆無で、華の無い地味な顔立ちなだけで、首から下のプロポーションには、同性の二人でも目を見張るものがある。体は着飾らせれば着飾らせる程、その華やかさと色を鮮やかにしていく。しかし、顔

立ちはそうはいかなかつた。

「凄い、これが私……！」

目を輝かせ、様々なポーズを取る山科。しかし、顔立ちは相変わらず、地味で目立たない。だが、本人にしてみると、驚愕の変化を遂げている様だ。

「この装備なら……」

「よし、待て」

ルンルン気分で部屋から出ようとする山科を、竜胆が止める。大して普段と変わらないとは言え、普段は化粧つ毛の無い山科が、貴族式の華やかな化粧をし、竜胆が選んだ肢体の線を強調するイブニングドレスを着用している。

そして今はまだ昼間、今の山科が外を出歩くのは、ちょっとどころではなく宜しくない。

「どうして？ 竜胆」

「オーケー、オーケー、竜胆さんに任せとけ。な？」

兎に角だ。確りしている様で、何処か抜けてる山科を、早く何とかしなくては、色々とマズイ。

竜胆は薄汚い社交界で培つた高速思考で、対応策を練るが、そんな事を考えている時点で、今の山科には勝てないので。

「なら、行つてくる！」
「待てつての！」

空冷式12気筒大出力エンジン、燃料は恋心。莫大量の熱量、それを圧縮、爆発を繰り返し、生み出されるエネルギーは、桁外れの出力となり竜胆を引き摺つていく。

「ああああああああつ！ リナシアア！ 麻野、麻野呼んでこい！ あいつに括り付けとけ！」

「リンドウ様ー?!」

しがみついたまま、山科に引き摺られていく竜胆。前線戦闘職である山科と、後方支援職の竜胆では、まるで話にならない。

その上、竜胆は後方支援職の中でも特に貧弱を極めている。リナシアも前線戦闘職であるが、それ程ではない。そんな竜胆とリナシアが、今の山科にしがみついても、哀れな牽引物が二つになるだけであった。

「山科！ 山科！ 止まれ！」

「御義姉様！ 御義姉様！ 止まつてください！」

「やだ」

山科は止まらない。小さな鼻から、フンスフンスと息を荒く噴き出し、前へ歩む足を止める事は無い。

高いヒールで確りと床を踏み締め、目的地へ向けて邁進する。

「御義姉様！　御兄様なら、今は公務で……！」

「知つてる」

「山科山科！　頼む止まれ！　あ！　ジョナサン！　助けてくれ！」

オーフィリア家にある竜胆専用の客室から、色白の美少年が顔を出していた。どうやら、竜胆の声を聞き付けた様だが、引き摺られていく竜胆を見て、軽く首を傾げた。

「リンドウ様、楽しい？」

「ああ！　可愛いなあもう！」

と言つてはいる間に、山科はズンズンと進んでいく。ジョナサンも状況が飲み込めず、動けない今まで、三人を見送る形となつた。

「御義姉様！　御兄様なら、もう間も無く戻れます！　なので、御部屋でお待ちになられた方が宜しいかと……！」

「そもそもうかがな？」

「おお、それもそだぞ！」

リナシアと竜胆は、無言のアイコンタクトで頷き合つた。このまま畳み掛けて、山科の自室に放り込み、グレイが帰つてきたら、山科の自室に問答無用で投げ込む。それでもしないと、こちらの身が保たない。

「二人は意を決して、山科を丸め込みに掛けた。

「グレ^{旦那}イさんの帰りを待つ未来の妻、良い響きじゃねえか？」

「ええ、本当ですわ、リンドウ様」

「だよな！ いやあ、帰つてきたら山科が、こんな綺麗なカツコして待つてたら、グレイさんもまた惚れるぞ？」

あと少しあと少し、山科の耳が反応して、前進するスピードが少しずつ落ち始めた。あと少しで、山科は自室に戻る。二人は次の一手を打とうと、口を開く。

「あとは、『おかげりなさい』でも言つてやればイチコロだつて！」

「そうですわ！ 御兄様は実はそういつたシチュエーションに、憧れがありますの！」

「本当？」

山科にしがみついたまま、二人は強く頷く。

正直な話、この突貫重戦車に付き合つていると、命が幾つあつても足りない。

このまま耳触りの良い言葉を並べ立てて、自室に引つ込んでもらおう。竜胆は得意の口八丁手八丁で、山科を言いくるめてしまおうとした時、廊下の曲がり角から、ある人物がひょっこりと顔を出した。

「えーと、何を？」

「神野」

美丈夫神野が、竜胆とリナシアを引き摺る山科を見て、事態を飲み込めず固まつた。今、彼の目の前では初恋の相手が、華やかな衣装に身を包み、その可憐さを引き立てる化粧を施している。そして、己はこの屋敷の主に用がある。

「グ、グレイ居る?」

「……御兄様は、急な公務で」

「そ、そつか」

神野は事態を整理しようと、召喚勇者に与えられた高速思考を用いて、情報を整理する。

まずは山科、非常に美しい。

そして竜胆、奇行は普段通り。

次にリナシア、意外だが彼女もはしやぎたい事もあるだろう。

最後に、部屋の扉からこちらを伺う美少年。確かに、竜胆のお気に入りの筈。

結論、分からん。

「グレイに見せにいく」

だが、答えは本人の口から語られた。

「山科、君のその素直さと一直線さは美德だ。だがしかし、騎士の中には女性が関わる事をよく思わない御仁^{老害}も多い。それとグレイの事だから、すぐに戻つてくるさ」

「むう……」

不機嫌そうに顔を背ける山科。帰つたら、リフィィーアと遊ぼう。神野はそう決めた。

「……じゃあ、部屋で待つ」

くるりと山科は反転し、自室へと向かう。神野はその後ろ姿を眺め、グレイに渡す筈だつた手土産を、こちらを伺っていたジョナサンに手渡した。

「明日辺りに聞いてみるか」

「何を？」

「ん？ 内緒の話さ」

神野はそう言うと、リフィィーアの待つ己の屋敷へと、足を向けた。

ビタービーンズラ・ブソ・デイー

さて、何がどうしてこうなったのか。

麻野は正面に倒れ伏す鶏ガラを見ながら、顎に手を当てて考えた。

周囲には銀色のボウルとヘラ、中には濃いブラウンのペーストが良い艶を出してい る。そして、その横には黒いブロック状の物が並べられたトレイがあり、一つ減つてい た。

「謎のペースト、減ったブロック状の物、倒れ伏す鶏ガラ。……これは、迷宮入りだ」
しかし、それはそれとして、麻野は嗅ぎ慣れた匂いのするブロック状の物を、口に放 り込んだ。

遠くない昔に慣れ親しんだ味、砂糖、ミルク、油脂の甘さと独特の芳しい香り、そし て口内を容赦なく蹂躪する苦味。

「うぬつ……」

叉焼が倒れた。

手は鶏ガラと同じく、何かを求めてさまよい、キツチンのテーブルを探る。

そして、液体が入っているであろう、冷たい入れ物を掴むと、両者一息に煽つた。

何はともかく、早く口に残る劇物を何とかしなくては、色々とマズイ。
 二人は其々に、湯煎用のぬるま湯、材料であるミルクを煽つて、口を濯ぐ様にしてから飲み込んだ。

そして一言

「なんだこれは……！」

若干回らぬ舌で叫ぶ様にして言つた。

これが一体何なのか、二人には解るには解る。だが、その事實を認めたくはなかつた。

「え、なにこれ？　なにこれ？」

「いや、いやいや、これはなんだ、オイ？」

トレイには四角いブロックがきちんと並べられ、二人に見慣れた姿を晒している。
 四角い甘い香りを醸し出す物体、つまりはチヨコレートだ。

「何で、こんな苦いのよ」

「いや、待て待て。記憶にあるレシピ通りに作つたし、何ならカ力才は減らしたぞ」

「ならなんで、こんな苦いのよ。味見した？」

「した。そのペースト、固める前のやつ」

竜胆が指差すボウルの中身を、指先に乗せて舌先に触れさせれば、確かに慣れ親しんだチヨコレートの味がする。

だが、固めた完成品は苦い。そこで竜胆が何かしたのではないかと見るが、それならばこの鶏ガラが倒れ伏していた理由が解らないと、ボウルを脇に抱えて叉焼は考えた。

「謎だ」

「おう叉焼、そのボウル離せや」

ボウルを掴む鶏ガラ、意地でも離さぬ叉焼。

ボウルの形が少し変わり始めた時、一人の来訪者が現れた。

「何をやつてるの？」

山科だ。ラフなジーンズとシャツ姿で竜胆の屋敷を訪れた山科は、抱えた紙袋をテーブルに置くと、改めて二人に向き直る。

「え？ 何？」

「山科、早く、この叉焼からチョコレートを引き剥がせ！ 叉焼がチョコレート味になつちまう……！」

「んだと、この鶏ガラあ……！」

「うつせえ！ 私が漸く仕入れた力カオから作つたんだぞ！ 高かつたんだよ！」

「……因みに幾らくらい？」

「…………kgで金貨三百」

「竜胆、馬鹿なの？」

山科の素直な言葉が、竜胆に突き刺さった。金貨三百枚と言えば、中流家庭の平均年収に当たる。

この鶏ガラは、有り余る財力に物言わせて、この世界では希少品ではあるが、そのぼつたくり値段でカカオを買ったという。

「い、いや、だつてよ、チョコレート食いたくね？　この世界、チョコレートクリームはあつても、本チョコレート無いじyan」

「あ、うん。それは確かにね」

ボウルにスプーンを突っ込み、中身を貪る叉焼が言えば、山科もそれに続いてスプーンを突っ込む。

こちらは確かにチョコレートだ。ただ固まつていなだけで、味は確かにチョコレートなのだ。

そこでふと、首を傾げた山科がトレイに並んだチョコレートを手に取った。

言い争う二人を他所に、こつちを食べればいいのにと、そのブロツクを口に放り込んだ。

「……」

山科が止まつた。

「し、椎名？」

「おい、ヤベエぞ。山科、無理すんな」

「椎名？ ちょつ！ 椎名?!」

「にがい……」

山科の小さな目から涙が落ちた。予想外の苦味に、驚いて流しただろう涙は、二人を動搖させるには十分過ぎた。

「山科山科、ほら、ペツて、ペツしな！」

「ほら椎名、牛乳、牛乳飲んで！」

「にがい……」

牛乳を飲ませ、少し落ち着いたところでクリームを口に含ませる。

まだ少し涙目の山科を、椅子に座らせて、麻野は竜胆を見る。

「竜胆、なんでいきなりチヨコレートなのよ？」

「ん？ ああ、新しい貿易路の開拓。東の山脈、トライゼン山脈を越えた場所に、カカオの群生地があつてな。利益になりそうだつたから」

「やつてみたらぼられたと」

「まあまあ」

軽く笑う鶏ガラ。しかし、目が笑っていなかつた。

チヨコレートクリームを乗せたスプーンを、山科の口に入れながら、叉焼は心の中で

手を合わせた。

——この鶏ガラ相手にぼつたり、御愁傷様——

次があるなら、絶対とんでもない条件を突き付けてから、少しマシに見える条件という釣り針を仕込んでる。

というより、貿易路の開拓と言っていたから、絶対仕込んでる。

この鶏ガラはそういう鶏ガラだ。煮込んでも灰汁しか出さない癖に、莫大な利益を生む金の鶏ガラ。

元の世界でも、割りと悪い事をして稼いでいたらしい。

その善惡の基準が、常人より曖昧な奴が、法律と価値観の違う世界に、力を与えられて放り込まれるとどうなるか。

答えはこれだ。

「ま、兎に角だ。販路はまだだが、やりようによつちや、新しい需要が生まれるな」「新しい需要?」

「ああ、そうだ山科。今回はこれがだが、近い将来にチョコレート専門店が出来るかもな。そうしたら、グレイさんと行つてこいよ」

「グレイと……」

何を想像したのか、フンフン鼻を鳴らし始めた山科に苦笑し、竜胆と麻野はテーブル

の上にあるトレイを見た。

竜胆、麻野、山科と三人が一つずつ食べて、残るは二十七。

竜胆が黙つて呼び鈴を鳴らし、麻野が無言で小さな紙袋とリボンを引き出しから取り出す。

「取り合えず、三個ずつかな」

「任せろ。家のメイドは美人揃いだ」

九人のメイドに紙袋とリボン、そして産廃を渡し、丁寧にラッピングを済ませれば、適当な男に渡してこいと言い放つ。

「大丈夫なの？」

「大丈夫、気にすんな。竜胆印の産廃だ」

何処か遠くで、何やら聞き覚えのある忍者の断末魔が聞こえた気がした。

竜胆さん

「いよう、ジョナサン。遊びに行こうぜ」

長く鋭い八重歯を堂々と、濃い隈に縁取られた瞳を爛々と輝かせ、白のスーツ姿でコートを肩に掛けた竜胆が、娼館に現れた。

「リンドウ様、なにするの？」

「町に出て、ショッピングと洒落こもうぜい」

「うん、いいよ」

何故かユラユラ左右に揺れながら、竜胆はジョナサンの手を取り、娼館を後にする。

「フフン、ジョナサンはかわいいなあ」

「どうしたの？」

「何でもないよ。さあ、キリキリ歩けい、ジョナサン。ほら、イツチニイツチニ」

ジョナサンの手を引いて、竜胆は妖しい笑みを湛えて町を行く。長い黒い髪を靡かせ

て、竜胆は原型の残らない鼻唄を、更に崩して轟ずる。

「さて、ジョナサン。君に一つ教えてあげよう」

「なに？ リンドウ様」

「君の様な見目麗しい年端のない少年を、私達の業界に於ける専門用語でショタと呼ぶのだが、これにはある絶対条件が付属するのである」

やけに気取った口調で、竜胆は長い人差し指を立てる。ジョナサンが目の前に立てられた指と、ニヤニヤと口の端を吊り上げる竜胆を、キヨトンと見ている。

「？」

「フフン、それはだね、ジョナサン。非常に簡単な話なのだよ」

竜胆はそう言うが、ジョナサンにはとんと分からぬ。竜胆の話は、未修学のジョナサンには難しく、竜胆はそれを理解しているのか、ジョナサンが考える様を楽しむ様な素振りもある。

ジョナサンもジョナサンで、それが嫌いではない。竜胆は難しい話をするが、必ず最後には答えをくれる。

「分からぬよ、リンドウ様」

「もう、ちゃんと考えたかジョナサン君？　ま、いいや。答えは、半ズボンだ……！」

堂々とした宣言に、町行く人々が何事かと振り返る。だが、白のスーツの女を見ると、皆一様に顔の向きを元に戻した。

竜胆も竜胆で、それを十分に理解していく、それらを気にする事無く話を続けていく。「いいか、ジョナサン。君の様な実にかわいらしいショタと、必ずセットに語られるべき

は半ズボン。そして君達の年代だけが持つ、あどけなくも僅かに垣間見える逞しさが入り交じり、しかし二次性徴の兆しの見えない生足！ これを十全に生かす事が出来る衣服、それが半ズボンだ

「そうなんだ。すごいね？」

「そうだろうそうだろう」

ふと己の姿を見てみると、娼館から渡された綿のシャツと長ズボン。竜胆の言う半ズボンとは違う。

そう思い、顔を上げれば、何時の間にやら店があつた。

「フフン、さてジヨナサン。ショッピングと行こうじゃないか」

きらびやかに光輝くショーウインンドウ、魔法を用いた照明の中に佇むマネキンと、様々な衣服。薄暗く、日の光も満足に差さない、古ぼけた角灯の灯りだけしかない。

そんな世界に生きるジヨナサンには、その世界は眩しそぎた。

「…………」

「気にするな。この店は私のだ」

最近、服飾業界にも手を出した竜胆。

主流派に煙たがれ、多数派に排斥され燻っていたデザイナーや、雇い主からの条件を飲めずに解雇された者達、食い詰めた役者を中心に雇用し、竜胆の潤沢な資金とコネク

シヨンを駆使して、他には無い新たなブランドを立ち上げた。

集めに集めた人材、向き不向きもあるが、それでも人の発想という武器は、人の数だけ存在する。

「この前、雇つた奴が私の同士でな。いや、実に良い出来だ」

竜胆が手にしたのは、上下一揃えのパーカーとカーゴタイプの半ズボン。 制作者が同じなのか、兎の様なマークが刺繡されている。

「うむ、膝を出して幼さを主張しつつ、布地とデザインで、背伸びした武骨さを醸し出す。
……素晴らしい……！」

「これ、着るの？」

「ん？ 気に入らない？」

「ちがうよ。僕には高すぎるよ……」

ジョナサンが身に纏う物は、安い綿の服と決まつている。安く使い捨てられる、破かれようが汚されようが、すぐに次が用意される物。

だから、竜胆が持つ服は受け取れない。受け取つても、きつとすぐにダメになつてしまふ。己と竜胆は違う世界に生きている。

「はつ、まさかそんな事か」

「そんな事つて？」

俯くジョナサンに、竜胆は笑みを向けた。長く鋭い八重歯を見せた笑みは強く、否応なく見る者を引き寄せる。

ジョナサンから見た竜胆は、そうなのだ。戦えばジョナサンよりも遙かに弱い。しかし、竜胆の本領は武力ではなく、その口から発される言葉と仕草だ。

「いいか、ジョナサン？　君は私の『お気に入り』だ」

そつと、耳元で囁く様に呟く。それが揺つたくて、ジョナサンが身を捩れば、竜胆は彼を抱き寄せる。

「いいか、君は私のものだ。今はまだ、そんな所に居るが、今だけだ。すぐに私の側に来る」

誰にもやるものか。

すぐに振りほどける抱擁、だがジョナサンはさるがままに、竜胆の腕の中に収まる。「フフン、まあ待つてな。連中がぐうの音も出ねえ金積み上げてやる」

薄い布越しに感じる骨と皮ばかりの体。ジョナサンを買いに来る人間とは違う、生きているのか死んでいるのか、その灰色の境界線を漂う様にして、竜胆は生きている。

竜胆が積み上げる金に、善悪があるのか。少し前に、竜胆と同じ召喚勇者が、そんな事を竜胆に問い合わせていた。

それに竜胆は、

「金に善悪の概念があるのか？　じゃあ、お前の懐の金はどうなんだ？」
 ニムラだかカナヤだか言っていたが、その二人はそれで黙つた。

竜胆が使う金に善悪は無い。だから、竜胆はどちらでもない灰色の境界線を歩く。

別の日には、カナシロと言つた『ハウンド』の召喚勇者が、相棒である狼の毛繕いをしながら、そう言つていた。狼の毛並みは凄く軟らかかつたからよく覚えている。

「だから、ジョナサンは私の言う事を聞かなきやダメ」

「なんでも？」

「ん、こう、ジョナサンみたいなカワライイ子になんでもと言われると、クルものがあるね。……なんでも聞いてくれる？」

覗き込んでくる表情は、何処か寂しそうで、今にも壊れて消えてしまいそうで、ジョナサンは思わずその頬に手を伸ばした。

長い黒髪、痩けた頬、強い瞳は僅かに潤んでいた。

「……ゴメンね？」

「いいよ」

「有難う、何度でも慣れないや」

深く抱き寄せる腕に身を任せれば、額に僅かに濡れる感触がある。

「……リンドウ様、悲しいの？」

「うん、私達もう半分になつちやつた……」

そう呟く声は震えていて、体は少しだけ震えていた。
もし、僕の頭が良かつたら、この人の涙を止められたのかな。
僕は頭が悪いから分からないよ。

何処かの教会 敬虔なる咎人 弓聖

埃の匂いが籠つた納屋の奥、幾重にも厳重に布に巻かれ、縄で縛り付けられたそれがあつた。

それからは、もう二度と使わぬという決意が感じられた。

「使うのですか？」

「神父様……」

長身の影が、納屋に差した。

「貴女の覚悟は理解していますし、貴女の優しさも理解しています」

「…………」

アサヒナは何も言わない。ただ包みを手に取り、唇を血が滲む程に噛み締めている。

「神は御許しになり、私も同じです。だから、貴女は貴女の心に従いなさい」

神父の言葉にアサヒナは、黙つてその封を開いた。

〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃

“月吼病”という病がある。

発生源は解らず、何時から始まつたのか。この大陸特有の風土病は罹患し、発症したが最後、夜空に浮かぶ月に向かつて、人とは思えぬ獸の雄叫びを挙げ続け、その一晩で周囲一切を見境無く破壊する。

そして、朝陽が昇ると共にその命を終える。

治療法は無い。罹患したと判明した時から、光差さぬ密室に、死ぬまで閉じ込めるか。発症して、最初の咆哮を挙げるまでに、罹患者の首を斬り落とすか。

だが、月吼病に罹患した症状は、風邪に似た症状と強い倦怠感しか無く、普通の風邪との判断が異常に困難であり、仮に罹患したとしても、発症する可能性もそれほど高くはない。

風邪と同じく、体の弱い者や子供に老人が多く、召喚勇者達が持ち込んだ医術や衛生に関する知識により、根絶への道が見え始めている風土病もある。

「シリック」

今は季節の変わり目であり、誰しもが体調を崩し易い季節もある。だから、アサヒナの住む孤児院では、厚手のセーター等を子供達に渡し、今日の様に雨の日には外には出ず、部屋で暖かくして過ごす様に言つてある。

「調子は良いの？」

「うん、今日は何でかすごく調子がいいんだ」

「……そう。でも、気を付けて」

「分かつてるよ、シスター」

彼、エリックは子供達の中で、年長の一人で少し体が弱い。中性的な見た目と、理知的な性格で、もし体の弱さが無ければ、今頃は何処かの貴族や名家に、養子として引き取られていたかもしれない。

「シスターこそ、子供達に自分のパンをあげたりして、倒れてもしらないよ」

「あら、大丈夫よ。私はこれでもタフなのよ」

そう、自分は召喚勇者。朝比奈の体は元の世界に居た頃とは、比べ物にならない程に強靭になつていた。

他にも、神野や和泉に新寺といつたクラスメイト達は、他のクラスメイトとは隔絶した強さを得た。得てしまつた。

「そんな事言つて、今朝もパンを下の子達にあげてたじやん」

「ふふ、そうだつたかしら」

「シスター、本当にいつか倒れるよ」

「大丈夫よ」

この理不尽な世界に対抗する為、朝比奈達は得てしまつた力を鍛え上げた。

その結果、神野は神の雷を、和泉は無双の剣技を、新寺は比類無き拳を、そして朝比奈は頑健な肉体を手に入れた。

朝比奈は一ヶ月程度なら飲まず食わずに行動出来、傷もすぐに治る。

自分には過ぎ、しかし他からは取るに足らない。そもそも、神野や和泉は傷を得る程弱くなく、新寺に至つては拳だけではなく肉体も、傷を得る様なものではなくなつている。

四強と呼ばれ、召喚勇者組の切り札と呼ばれても、朝比奈は己が弱さを嘆いていた。
体は強くなつても、心までは守れない。

あの日、麻野達の様に山科の無実を訴え戦つていたら、今頃どうしていただろう。

竜胆にこき使われて、麻野達からは文句を言われながら、でもあの人を喪わずに済んだのだろうか。

「シスター？」

「大丈夫、何でもないわ。……ちよつとだけ考え方よ」

喪つた者は多く、それは取り戻せない。だからこそ、償いをしなければならない。

「さ、歌の時間よ。今日のお祭りに歌う歌の練習をしましょう」

その償いに子供達を護るのは、ただの自己満足なのだろう。

しかしそれでも、竜胆から手渡されたこの贖罪がいつか実を結ぶと信じて、朝比奈はそれにすがるしかなかつた。

〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃

「まだだ！」

「ちくしょう！ 一体、どつから射つてやがんだ?!」

暗い暗い森の中、男達は阿鼻叫喚の堀堀にいた。

「ぎやあつ!!」

「なんなんだよ……、なんなんだよこれは……!!」

次々に矢を射られ倒れていく仲間達、今夜は祭りの筈だつた。年に一度の収穫祭、油断しきつた村を襲い、金も飯も女も子供も好きな様に奪いいたぶり、渴ききつた欲望を満たせる。

その筈だつた。

なのに、

「お頭がやられた！」

「逃げろ！　逃げろお……！」

蓋を開けてみればどうだ。

隠れ潜んでいた森からは抜け出せず、背を向ければ矢を射られ、木々に隠れてもそれごと射抜かれる。

頼みの綱であつた召喚勇者である頭領は、今先程頭と心臓を射抜かれ、三矢目で頭が吹き飛んだ。

理解が出来ない。

今日は祭りの筈だつたのに、ようやく渴いた喉を潤せると思っていたのに、誰にも知られず獸の餌になつっていく。

武器を投げ捨て、次々に散々になり、仲間が射抜かれ倒れていく様に脇目も振らず逃

げ出し、飛び交う悲鳴と矢の雨を抜け出した男が見たのは、二重の月を背に佇む長弓を持つ修道女だった。

「……あ、ああ……」

「運が良い。まさか、私の矢に当たらず森から抜け出すとは」

「お前、お前が……!!」

「だけど、村には近寄らせない」

男が最期に聴いたのは、修道女の言葉と月明かりの様に優しく光る矢の音だった。

「……アサヒナ」

「神父様……、どうしてここに？」

「私も若かりし頃は、神の道に叛いた生き方をしていましてね」

斧を手にした神父は、ばつが悪そうにそう言つた。

「アサヒナ、さあ帰りましょう。子供達が貴女を待っています。……死体の処理は教会から来ます」

「……はい」

それ以上は、神父も朝比奈も何も言わなかつた。
だが、神父は心の中で祈りを捧げていた。

——神よ、どうかこの敬虔なる咎人に救いを与え給え

朝比奈の心に巢食う罪に、神父はただ祈りを捧げ、いつの日か彼女に救いが訪れる事を静かに祈つた。

何処かで

幼い声が、野原に転がる。楽しげに転がる声は、降り注ぐ陽射しに暖かく照らされる。

そして、その中の一人が、小さな手に花を握つて駆け寄つてくる。

「せんせー、これあげるー」

「ああ、有難う」

手渡された小さな白い花を受け取り、優しく微笑む女が、子供の頭を撫でる。その優しい手に、子供は目を細め、嬉しげに笑みを溢す。

「せんせー、今日はお歌、歌わないの？」

「ああ、少し待つてなさい」

女はゆっくりと立ち上がり、近くに置いてあつた弦楽器を持ち、近くにあつた切り株に座り、膝に楽器を乗せた。

「さあ、皆。歌の時間だよ」

弦を弾く旋律に乗せて、子供達の歌声が野原に響いていく。音階も何も無い歌だが、それでも楽しく音を奏でている。

「あ！ 神父様だ！」

子供の一人が、野原に近付く人影を見付けて声を上げた。黒いキャソックに身を包んだ長身、穏やかな微笑みを湛えた表情の壮年の男が、気軽に様子で片手を上げていた。

「やあ、調子はどうだい？」

「お陰様で、病気一つ無いよ」

「それはよかつた」

鍔の広い帽子を脱ぎ、額に浮かんでいた汗を拭う。今日は陽射しもよく、教会からここに来るには、少し急な坂を登らねばならない。汗ばむには十分な条件が揃っている。

「神父様、今日はどうしたの？」

「ああ、シスターからたまには運動しなさいと、言われてしまつてね。ははは、ここまで来るのでクタクタだよ」

「あはは、神父様ダメダメだー」

「ははは」

僅かに肩を落としていると、女が弦を弾いた。

神父が力無く笑い、流れてきた鈍い汗を拭う。子供は無邪気故に、その言葉に容赦はない。

「神父様、何か話があるのでないでは？」

「おつと、すまないね。さあ、皆。向こうで遊んで来なさい」

「えー」

「ごめんね。神父様と少し難しいお話をしないといけないの」

少し離れ、二人は遊ぶ子供達を見ながら、話を進める。

「最近、周囲の村に野盗が出てるらしい」

「また？」

「なんでも、王国の騎士団でも敵わず、捕らえきれなかつたとか」

「召喚勇者……、いや、転生勇者かな？」

「分からぬ。だが、注意はしていくれ」

帽子を被り直し、神父が女を見詰める。そう長い付き合いではないが、この女の性格と実力はよく解っている。

「国の騎士団が敵わないなら、召喚にしろ転生にしろ、碌な奴じやないな」

「そうだな」

並の連中なら、この女の敵ではない。隣の大陸から流れてきた女、この女が来てから町は変わつた。

貧しかつた町に、何故か行商人や寄付金が流れ込み、その行商人達を呼び水に、小さな町には余りある利権が舞い込んできた。

そして、女は身寄りを無くした子供達の為に、孤児院を開いた。

「アサヒナ」、子供達を頼みます

「ああ、いいよ」

そう言うと、アサヒナは神父に背を向け、子供達の遊ぶ野原に足を進めた。

「せんせー、お話をわったの？」

「そうだよ。さ、皆。もうすぐお昼だ。帰ろう

「はーい」

優しく微笑む姿は、まさしく慈母の様だと、去り際に神父は思つた。だが、あの慈母の顔の下にあるものは、そんな優しいものではないと、同時に理解もしている。

「せんせー、今日のお昼はー？」

「今日はなんと、たっぷりベーコンシチューよ

「やつたー！」

——罪滅ばしだよ

アサヒナが嘗て呟いた言葉。孤児院を開いた理由を問い合わせ、返ってきた答えが、その言葉だった。

彼女に何があつたのか、神父は知らない。だが、子供達が言うには、寝言で「ヤマシ

ナ”なる人物に謝つていたらしい。他にも誰かに謝つていたらしいが、聞き取れた名前はその一人だけだつたようだ。

興味が無いとは言い切れない。だが、神父は神に仕える者であり、神の御名の元に告解を聞き入れ、罪を許す者だ。

だから、アサヒナが自らの罪を告白するなら、神父は黙つてそれを聞き入れる。
「神よ、かの敬虔なる咎人に、どうか救いを……」

神父は神に祈り、教会のある町に向けて、長い坂道を進んだ。

//////////////////

結局、誰も彼もが理解出来ていなかつたのだろう。この世界に生きるという事を、それが意味する事を、本質を理解出来ていなかつた。

奪えれば奪われる。自業自得、それをただ知つてゐるだけで、理解出来たのは奪われた後。もしかすると、あの“拳豪”と呼ばれていた喧嘩屋は、解つていたのかも知れない。
「せんせー、どうしたの？」

「ん？ 明日のご飯は何にしようかなって、考えていたのよ」

「あはは、せんせー食いしん坊だ」

「そうね」

あの痩せた女の手引きで、この大陸に移り住んで早くも半年近く経つた。向こうはどうなつてているのだろうか。

夜も更け、女は子供達を寝かし付けた後、全員が眠つた事を確認してから、孤児院の外に出る。見上げれば、雲一つ無い夜空と、青白い光を放つ月があつた。

こんな月夜に、野盗は出ないだろう。ああいつた連中は、少しでも己の姿を隠したがる。

「…………」

無言で首飾りを触る。嘗て、愛する人から贈られたそれは、服の中で体温を吸い、僅かに温かさを感じさせた。

二本の極細の鎖を二重に捻る様に巻き、その鎖に二つの指輪を通したそれは、月明かりを鈍く照り返していた。

「ごめん……、ごめんよ……！」

謝つて許される訳がない。だが、今となつてはそれしか出来ない。

あの日、己は我が身と愛する人の為に、学友だった者を裏切った。だが結局、守ろう

とした人は奪われ、己には裏切り者の烙印だけが残つた。

奪えは奪われる。正にその通りだつた。

あの日、是が非でも、例え国に逆らう事になつてでも、彼女を見捨てず、あの二人と共に奔走していれば、若しくは愛する人を拐つて逃げていたら、もしかしたら何か変わつたのかもしれない。

踞り涙を流し続ける女を、青い二重の月だけが見ていた。

ニツク＆リドリー

新寺陸

古ぼけて、傷みに傷んだ質の悪い部屋、立て付けが悪く、僅かだがすきま風が吹き抜けてくる。

「ぬあ、ああ……」

呻く様な欠伸が、簡素な寝台から聞こえる。起き上がり、サイドテーブルの瓶に口を付け、中身を一気に飲み干す。

生温い水が、喉を通る。伸びた髪を搔き、乱雑にフケを搔き出す。

「風呂、か」

首を左右に動かし、骨を鳴らす。重々しい音が連なり、一つの音となつて男の聴覚に届く。寝台から降り、軋む床を踏みつけ、洗面所の鏡に向き合う。ろくに手入れもせず、伸びた髪と髭。浮浪者と言われても、なんら違和感は無い。

否、実質は浮浪者に近いならず者だ。

鎧の浮き出した蛇口を捻り、水を出して顔を洗おうとするが、水がまともに出ない。

「またか」

舌打ちを一つ、男は分厚く骨の硬さが解る拳で、蛇口と一体となつた洗面台を殴る。

鈍い音が鳴り、洗面台が揺れる。

揺れが収まり、暫くすると、洗面所奥の扉から水の音が聞こえだした。溜め息を一つ落とし、男が蹴破る様に扉を開くと、古ぼけたシャワーへッドから、水が溢れていた。

「……まあ、いいか」

寝間着を脱ぎ捨て、水の滝へと身を投じる。湯などと気の利いたものは出ておらず、冷水が寝起きの体を冷やしていく。

色褪せ輝割れた石鹼で、フケと垢を洗い流し、伸びた髪を後ろに回す。タオルで体の水気を拭い、着替える。

履き古したカーゴパンツにシャツにブーツ、色の褪せ始めたジャケットを羽織り、部屋から出る。

ブーツの硬く重い足音を響かせ、狭く軋む廊下を進み、思わず踏み抜きそうな階段を降りる。

陰鬱な雰囲気のエントランスには、それに似合いのテーブルとソファー、そして持ち主の管理人が居た。

「よう、”ニック”。早いな」

「ベニー、いい加減に配管を直せ。また、イカれてるぞ」

「お前が殴り過ぎなんだよ」

痩せた狐の様な陰険な目の男、このアパートの管理人であるベニーは、モップを片手に杖の様にして、ニツクを睨んだ。

「どうせ、また蛇口から水が出なくて、殴つたらシャワーが出た、だろ？」

「解つてんのか」

「もう一年近いんだぜ？」

モップを支えに、ベニーは欠伸を漏らす。ニツクがこのアパートに住み着いて、一年近くになる。

それは、この世界に呼び出されてから、また数年が経過したという意味だ。くそつたれな世界に、くそつたれな力。同じクラスの連中は、一部を除いて浮かれ、持て囃され、彼にはそれが心底馬鹿らしく見えた。

だからだろうか、仲は悪くはないが良くもない。時々、猫の話をするだけの間柄の、クラスマイトの結婚式の日取りが決まつた日に、彼は国を出た。

ニツク、新寺陸はレミエーレ王国に召喚された、召喚勇者の一人だ。

「……長いな」

「ああ、そうな。んで、今日は？」

「特に仕事は無い。有つても、今日は受ける気は無いな」

「そうかい」

言つて、ベニーは床掃除を再開する。ニックは彼に背を向け、曇天の寂れた町に足を踏み入れた。店も人も少なく、店先にはそれ以上に物が無い。

市場に入り、枯れ枝の様な老婆が店番をする出店から、所々黃色く変色した果実を買ひ齧る。

不味くはないが、美味くもない。というより、味が無い。殆どが水分、腹も膨れないが、喉は潤せる。

そんな町、人も物も回つてこない、壊死寸前の町を、ニックは宛もなくさまよう様に彷徨く。

大国レミエーレ王国の国境沿いにあるとは思えない。それ程に、この町を抱える国は疲弊している。

「……鶏ガラ女が居ればな」

口を突いて出した言葉を、急ぎ飲み込む。確かに、あの変人奇人の見本であれば、属国

の田舎町の一つや二つ、半年で復興させるだろう。

市場を抜ける手前、スペアリブと辛うじて判る肉が、情けない火力の炭に焼かれていた。もう、肉を焼いているのか、骨を焼いているのか、判別に難いが、匂いだけはよかつた。

「……よう、ニック」

「オマリ、お前、店は？」

「開店休業というより、屋台が限界さ……」

「そうか。三つくれ」

「毎度あり」

痩せた濃い肌色の男が、肉を紙袋に詰める。馴染みの店の味という事もあり、味は良かつた。

肉を齧るというより、こそげ落とす様にして、歯で骨を引っ搔き、余った骨を口の端に挟み、弄ぶ。

もう、場末の居酒屋にすら、まともな食材が流通していない。誰もが、この町の現状の原因を悟っている。だが、誰もがこの町から離れない。

まだ何とかなると、思っている？

いや、せめて最期くらいは看取ってやりたい。そんな考えだろうか。

骨を詰めた紙袋を、詰まりかけの溝に放り捨て、アパートに戻る。仕事も無いから、あとは寝るだけだ。

軋む階段を踏み抜かない様に、気を配りながら、自室の前まで歩き、ドアノブに手を掛け様として、蹴破つた。

「よう、新寺」

「……お前、何してる？ 竜胆」

痩せた女、竜胆が長い八重歯を見せる笑みを浮かべて、寝台に寝そべっていた。

「いやな、お前に仕事を持つてきたのさ」

「お前が？ 何を企んでいる？」

新寺が拳を握る。それに、竜胆は両手を上げて降参の意思を示す。

「いいのか？ 一発で血の池地獄だぞ……！」

「新手の脅しだな」

溜め息を吐き出し、拳を解く。この女の武器は、よく回る口と言葉に乗せた呪いだが、竜胆自体が弱く、新寺は竜胆を上回る。他に誰か居るなら別だが、一対一で竜胆が勝てる要素は一つも無い。

「竜胆、お前、こんな所に居る暇があるのか？」

「……なにがー？」

「魔属との戦線はいまだに、ついでに山科の結婚式、やることは山積みの筈だ。そのお前が……！」

言葉は出なかつた。単純に気圧された。傷一つ付けられる筈の無い相手に、新寺は気圧され、言葉を失つた。

そして、気圧された新寺に、竜胆は言葉を放り投げた。

「山科は逃げたよ」

「は？」

「……グレイ・オーフィリア殺害と反逆容疑で、私達が逃がした」

目眩がした。このくそつたれな世界は、本当にくそつたれだつたらしい。

「それで、仕事つてのは、逃がした山科を捕まえろか？」

目眩のまま、やけくそに問えば、苛立つた声が答える。

「違う。お前にしか頼めない仕事だ」

竜胆が部屋の壁をノックする。隣の空き部屋から、何者かが出て、この部屋の扉をノックする。

「あの……」

銀髪に褐色の肌色、そして長く尖った耳。稀少種族と謳われる“ダーク・エルフ”的少女が、扉を開けて立っていた。

「お前には、この娘の護衛として旅をしてもらう」

「待て」

「目的地は彼女の故郷。彼女の無事の帰宅で、依頼は完遂だ」

「待てと言つてんだろうが！」

「うるせえ!! 黙つて受けやがれ木偶の坊……!!」

「竜胆が叫んだ。その叫びに、新寺を目を丸くし、ダーク・エルフの少女は身を強張らせた。

「いいか! お前なんだよ! お前が、お前が王都を離れなかつたら、もしかしたんだ! 山科が、幸せになれたんだ……!」

新寺の分厚い胸板を殴り、竜胆は泣く様に叫び続けた。それは、彼女が絶対に見せない一面であり、これから誰にも見せない一面だつた。

何時も妖しい笑みを浮かべて、余裕の態度だつた彼女は、今は居ない。そこには、怒り悲しみ後悔諦め、様々な負の感情をない交ぜにした、焼け尽きそうな表情で己を殴り続ける女が居た。

「お前が、居なくならなかつたら、山科を守れた。お前が居たら、あんな事起きなかつたし、起こさせなかつた……」

無言で言葉と打撃を受け続け、新寺は竜胆の腕を掴む。

枯れ枝、骨と皮ばかり、下手をしたら鶏ガラの方が、まだ肉が付いているかもしねない。あり得ない事を考えながら、隈の浮いた鋭い視線を見下ろす。

「竜胆、このガキを故郷に送つて、どうなる?」

「……ダーク・エルフの部族間のネットワーク、人材、協力、相互利益が得られる」

「……山科の為だな」

睨み付ける目は、己の言葉の正しさを示している。山科と竜胆は、同じ孤児院の出だ。そして、竜胆は己のものを失う事を恐れる。

「新寺、私はこの世界を滅ぼしても、山科を傷付けた奴を殺す。楽には死なせない。古今東西有りとあらゆる呪言を使って、苦しめて苦しめて、殺してやる……」

「俺にも殴らせろ」

新寺は竜胆の腕を離すと、荷物を纏め始める。

「ガキ、名前は」

「……リドリー、リドリー・ベイカー」

「リドリー、お前の国は?」

「確か、ファーゼルって国が近いって」

リドリーの言葉に、新寺は竜胆を見る。

彼女は、ただこちらを見ているだけで、特に動きは無い。

「山科の行き先はファーゼルだな」

「せめて、疑問にしろ。……あの国なら、レミエーレのバカ共も、簡単には手は出せないし、ファーゼルを越えれば手出しどころの話じゃなくなる」

「麻野と浜名のバカコンビもだな?」

「あの二人も、レミエーレから出す。頼むぜ、『拳豪』新寺陸。私たちの鬼札」
ちらりと、己の足元に居るリドリーを見る。首には小さく呪印と首輪の痕が、僅かに
残っていた。そして、服装も整っているが、やけに露出が多い。

ダーク・エルフの元娼婦、否、娼婦見習い。

そして彼女の故郷はファーゼル王国の何処か。距離はかなり遠く、レミエーレ王国を
横断し、ファーゼル王国内でダーク・エルフの集落の情報を集める。

「その鬼札は、かなり高いぞ」

「この町の復興支援と、経済援助。そして、レミエーレ国境沿いからの通商路の開拓と永
続的雇用確保。作業にはこの町から中心に雇用、保証も付けてやる」

「あと旅費と、リドリーの服だ。これじゃ、話にならん」

新寺は首を鳴らし、リドリーを摘まみ上げる。

「首を隠せるやつな。厄介事は減らすに限る」

「準備してるよ」

竜胆が隣の空き部屋を指差す。新寺は一度、竜胆の頭に手を置いてから、部屋を後に
する。

「任せておけ。助けられたら、助ける」

そんな言葉を残して、リドリーを伴った新寺が部屋から出た。

旅路

木漏れ日が瞼を越えて、光を伝えてくる。不愉快な目覚めだと、新寺は身を起こす。

「ニック、起きた」

「リドリー、退け」

のそりと、新寺が立ち上がる。蜜色の肌の子供が、新寺の巨躯から転がり落ちる。

首を左右に曲げ、骨を鳴らす。派手な音をさせる首は太く、纖維質な音は数度鳴つて止む。非常に涼しく、とても過ごしやすいが、新寺には朝陽に起こされるのは、あまり気分が良くない。

新寺にとつて、朝は陽の光ではなく、あのオンボロアパートの部屋で、自らの眠気が覚めた時だ。

「ニック、朝」

「……リドリー、なんで腹に乗る？」

「店でこれすると、皆リドリーほめてくれた」

「……そうか、俺にはしなくていい」

「ん」

頷くりドリーを眺めて、木々の隙間から街道を伺う。人通りの少ない街道を選んだ事もあつて、行商人の一人も歩いていない。

「よし、行くか」

「ニック、あれなに?」

小さな指が指示する街道の向こう側には、赤黒い染みを浮かせて、襪襪布に包まれた何かが、木の枝に吊るされ、朝の風に揺すられていた。

揺すられ、先端に溜まつた液体が滴り落ち、水溜まりを作つてはいる最中だつた。

「リドリー、あまり見るな」

朝から不愉快なものを見たと、新寺が舌打ちをする。赤黒く汚い木乃伊には、現地語で“ざまあみろ”と刻まれていた。

見せしめだろう。まだ新しい、恐らくは自分達が寝ている時には、吊るされていた筈だ。

「……迂闊だつたか?」

新寺一人なら、気にも留めないが、今はリドリーという荷物を抱えている。こんな明らかに厄介事には、関わらないに限る。

新寺は少ない荷物を纏め、吊るしの木乃伊に背を向ける。

「ニック、いいの?」

「何がだ？」

「だつてあれ、イモムシみたいで、ちよつとかわいいよ?」

「……お前は少し、ものを学んだ方がいいな」

どうにも、このリドリー・ベイカーという少女は、感性が独特で新寺には、理解が追い付かない事が多々ある。

これが彼女自身のものなのか、ダーク・エルフという種族のものなのか、区別はつかないが、理解が出来ないという事だけは確かだ。

「ニックは、かわいくないの?」

「仮に、あれを可愛いとして、お前はあれをどうする気だ?」

「少し持つてくる。あきたら、する」

子供は純粹無垢故に残酷だ。誰かがそんな事を言つていた氣がする。

傷だらけの手で、頭を搔く。確かに、麻野だつた。腹の肉を摘ままれたとか、驚掴みにされたとかで落ち込んでいたが、なら痩せればいいと思う。

新寺が溜め息を吐くと、リドリーの長い耳が動く。

「……リドリー、問題だ。上手く答えられたら、次の町か村で菓子を買ってやる」「ニック、リドリーはクリームたっぷりのケーキが好き」

「そうか。なら、これは何でどうするべきだ?」

新寺が指差すのは、粗末な革鎧に安い造りの剣や鉈に斧、そして下卑た笑み、新寺から見て、所謂ステレオタイプな山賊達が居た。

「おい！ 大人しくしろ！」

「で、答えは？」

「大人しくすれば、殺さなねえ！」

「ニックが倒す」

「テメエら！ なめてんじや……」

「正解だ」

襲い掛かってきた一人が、消えた。雑、無造作、技術を欠片も感じさせない拳が、音も無く、男を殴り飛ばしていた。

「は？」

「さて、問題だ。俺の嫌いなものを当ててみろ」

山賊達が意識を失う前に聞いたのは、新寺のそんな言葉。意識を失う前に見たのは、新寺の厳の様な拳だった。

「てごわい相手だつた……」

「お前は何もしてないだろう」

適当に縛つて一纏めにした山賊を、街道の脇に蹴り飛ばしながら、新寺は何故か誇ら

しく胸を張るリドリーを見る。

濃い蜜色の肌に白銀の髪、小さな体を反らせて、転がる山賊を踏みつけて、リドリーは鼻を鳴らす。

「こたえた」

「ああ、そうかい」

軽く息を吐き、新寺は上着の胸ポケットから、フレームの無い丸いレンズのサングラスを取り出し掛ける。

「ニック、ニック」

「ああ？」

「あれ、タコ」

「タコオ？ こんな山の中に、タコが……」

リドリーが騒ぐ。新寺がサングラスをずらして、その先を見れば、先程まで吊るされていた木乃伊の頭部が、気色悪く膨れ上がっていた。

腐った血肉の色は、絶妙に赤黒く、裂けた襤襷布が垂れ下がり、肉から伝わる血と膿に染まる。

口か鼻か、それすら最早判断出来ない部分から、血と膿、腐り溶けた肉が泡となり吹き出す。

「うわあ……、ニツク気持ちわるい」

「言い方を考えろ。気持ち悪いのは、アレだ」

氣味の悪い見た目で、実に氣分の悪くなる水音を立てながら、膨れ上がった頭を揺らす。半固体と液体を、水風船に入れて揺らせば、こんな音が出るだろう。

だが、今揺れているのは、血と膿と腐肉を詰めた肉風船だ。正直、これ以上は聞きたくも見たくもない。

「リドリー、伏せてろ」

「ん」

新寺は側に残っていた枯れ木を、裏拳で抉る様にへし折ると、そのまま槍投げの要領で、肉風船へと投擲する。

「あ？」

「ニツク、どうしたの？」

一瞬、肉風船が笑った。そんな気がした。甘つたるい様な、甘臭い声で笑った様な気がした。

不愉快に不愉快を掛け合わせて、そこから出てくる答えは、総じて塵屑以下だ。これ

れならまだ、隣で呆ける小娘の戯れ言の方がいい。

「タコ、ばくはつする。リドリーはかしこくなつた」

「それは間違いだから、今すぐ忘れろ」
「そんな！」

吊るされていた木に、今度は磔にされて、肉風船は破裂した。辺りには腐り溶けた血肉と、半ば固まつた膿が撒き散らされ、赤と白濁した黄色の二色の水溜まりが出来ていた。

「……ああ、最悪だ最悪だ最悪だ」

「タコ、ばくはつしない。リドリーかしこい」

最悪だ、最悪の気分だと、新寺は吐き気を催す光景を背にし、リドリーがそれに着いていく。

徒步の旅路は長く、それなのにあんなものに出会した。この仕事は上手くいきそうにない。サングラスの位置を直して、前に視線を向ける。
細く長い煙が幾つも伸びている。炊煙だ。

「町か？」

「ニック、ケーキ」

「売つていればな」

地味に高級菓子を要求するリドリー、溜め息を吐き、背を丸める新寺。

この二人の旅路は、二人の絆と親愛

そして、

「リドリーは、クリームと果物たっぷりのケーキが好き」「一番高いタイプじゃねえか」

別れの物語である。

イツチ奮闘記

助けてください

ここは神様転生をくらつた哀れな子羊達の相互救済の場です。誹謗中傷はくそつた
れの神野郎に対してのみ行いましょう。

1 : 名無しの転生者 2016/6/17 6:00:00 ID:MCPerIYqu
e

助けてください

V 5 : 名無しの転生者 2016/6/17 6:00:39 ID:Uq3r0oP7

お？ 久々のテンセイシャーか

4 7 : 名無しの転生者 2016/6/17 6:01:26 ID:NblKmfmfYR

おー、本当に久々な。つーか、何年ぶりよ？

8 : 名無しの転生者 2016／6／17 6:01:52 ID:XtFyPDK
y

俺の知ってる最近の奴は、ありふれ世界テンセイシャーの人生RTAだつたから、大体こつち時間で五十年は前か？

10 : 名無しの転生者 2016／6／17 6:02:40 ID:ID6IuFn
pu

あー、あれな。俺TUEEEE系のウェイ系が、調子乗つて魔王ハジメに喧嘩売つて、一秒保たなかつたやつ。

ガバガバRTA走者のお手本みたいな奴だつた

14 : 名無しの転生者 2016／6／17 6:03:01 ID:57MTJup

a4

ガバリティ高かつたよな

16 : 名無しの転生者 2016 / 6 / 17 6 : 03 : 34 I D : 7032 + N R
b j

そうそう、かなりのクソガバだつた

21 : 名無しの転生者 2016 / 6 / 17 6 : 04 : 02 I D : 34E0Vyz
M Q

お、待てい。クソガバハーレム志望ガバガバRTA走者の事は今はいい。イツチが息
してないゾ

24 : 名無しの転生者 2016 / 6 / 17 6 : 04 : 44 I D : J3Aiuy
d H

あ、どうも1です。あの、どうか助けてください。というか、手助けが欲しいです

29 : 名無しの転生者 2016 / 6 / 17 6 : 05 : 23 I D : yWLOsPf

しゃーねーな。ちょっと話してみ

u A

32：名無しの一般ヒューマン 2016／6／17 6：05：59 ID：xKJ
3 K K z 5 9

有難う御座います。あ、コテハン変えました。

それで相談なんですけど、まず最初に敵というか、モンスターが強すぎて、転生する時に神様から貰つたチートが、殆ど通らないんです

37：名無しの転生者 2016／6／17 6：06：46 ID：rY9PKiS
e w
ワツツ？

40：名無しの転生者 2016／6／17 6：07：23 ID：92224Xv
s k

転生チートが通らない？

イツチは魔王城周辺住みか何かかな？

45：名無しの一般ヒューマン 2016／6／17 6：08：14 ID：m0/
5 k M z x d

あ、いえ、普通に人の国の中にある田舎住みです

48：名無しの転生者 2016／6／17 6：08：51 ID：f g E u 9 M 8
6 F

じゃあ、そのモンスターが強いとか？

52：名無しの一般ヒューマン 2016／6／17 6：09：28 ID：T e /
4 M x W D +

それがこれ、ただのスライム系モンスターとかなんです。あのドラ○工系の……

53：名無しの転生者 2016／6／17 6：10：04 ID：007 x 1 o m
7 T

ゲームでは雑魚だったモンスターが、実際は化け物みたいに強かつたは、よくある話
だけど

57：名無しの転生者 2016／6／17 6：10：50 ID：W w Z C q H G
u j

イツチ、続き力モン

61：名無しの一般ヒューマン 2016／6／17 6：11：30 ID：IYD
WMwOK5

えーと、それでですね。貫ったチートが純粹に戦闘向きじゃないという事もあるんで
しようけど、振った剣が弾かれたり、射った矢を当たり前に避けたり、あ、ミノタウロ
スつているじゃないですか。

あれを当たり前に補食対象にしてたりします

64：名無しの転生者 2016／6／17 6：12：07 ID：bu348va

魔境で草 wwwww

f g

66：名無しの転生者 2016／6／17 6：12：40 ID：zm5Zqz1

Wk

イツチ詰んでね？

69 : 名無しの転生者 2016 / 6 / 17 6 : 13 : 30 ID : r7FCJKj
v i

いや待て、その魔境でイツチは生き残っている。つまり、イツチはその魔境でも生きられる実力があるという事になる

71 : 名無しの転生者 2016 / 6 / 17 6 : 14 : 11 ID : yJyTQLf
+ T

>>69 お前頭いいな

75 : 名無しの転生者 2016 / 6 / 17 6 : 14 : 38 ID : nRY+46u
e O

あ、実はそうでもないんです

76 : 名無しの転生者 2016 / 6 / 17 6 : 15 : 02 ID : SOO8DD5
Z y

>>69 お前頭悪いな

78 : 名無しの転生者 2016 / 6 / 17 6 : 15 : 22 I D : L 6 F i L w p
 82

手のひらクルツクルやんけ

79 : 名無しの転生者 2016 / 6 / 17 6 : 16 : 11 I D : l k A I m x w
 d r

手首ボールジョイント

82 : 名無しの一般ヒューマン 2016 / 6 / 17 6 : 16 : 55 I D : E o Q
 2 C 89 z 2

とりあえず、私のスペックを超絶簡単に

名前？伏せ

性別？女

身長？普通

体重？この世界だと瘦せてる部類

所属？ファーゼル王国王都近郊

スキル？農地開拓、品種改良、頑強、魔力強化 e t c.

8 4 : 名無しの転生者 2 0 1 6 / 6 / 1 7 6 : 1 7 : 3 5 I D : H y a h r U 1
b I

戦闘系が無いわね

8 7 : 名無しの転生者 2 0 1 6 / 6 / 1 7 6 : 1 8 : 1 7 I D : P H J 2 k e w
7 S

あ、イツチ。転生した時に、チートくれた神様つて、男? 女?

8 8 : 名無しの一般ヒューマン 2 0 1 6 / 6 / 1 7 6 : 1 9 : 0 6 I D : L j m
t c m H q K

確か、よく分からない人型だったような

9 3 : 名無しの転生者 2 0 1 6 / 6 / 1 7 6 : 1 9 : 5 0 I D : Q 7 Q n y Q F
V I
あ (察し)

96 : 名無しの転生者 2016 / 6 / 17 6 : 20 : 37 I D : j R S I + b g
 Q r

これは一番最悪のパターンですね

98 : 名無しの転生者 2016 / 6 / 17 6 : 21 : 24 I D : C P W S E L 1
 V C

イツチ、強く生きて

101 : 名無しの転生者 2016 / 6 / 17 6 : 21 : 48 I D : F 10 F Z v
 X w K

はーい、イツチ質問。イツチのいる世界って、どんな世界なん?

106 : 名無しの転生者 2016 / 6 / 17 6 : 22 : 19 I D : 9 t J T A T
 O Z J

あ、そう言えばそれ聞いてない

111 : 名無しの転生者 2016 / 6 / 17 6 : 22 : 47 I D : s Q c i z +

0 a a

それな。ありふれ世界みたいな世界だつたら、俺らも助言出来るかもだし

115：名無しの転生者 2016／6／17 6：23：21 ID：B P p D B Z
I v L

なお、RTA走者

117：名無しの転生者 2016／6／17 6：23：57 ID：I W b i o q

B v r

>>115 奴の事は忘れる。今はイツチだ

119：名無しの一般ヒューマン 2016／6／17 6：24：34 ID：4 S

E p W O / 3 Z

私の知るラノベや、そういつた世界ではない事は確かです。
誰か、ファーゼル王国という国名に覚えのある人は?

122：名無しの転生者 2016／6／17 6：25：15 ID：8 n h L 0 O

C
H
r

ファーゼル王国？ 知らない国ですね

126：名無しの転生者 2016／6／17 6：25：51 ID：VNICdx
V
O
x

かなりマイナーな作品か？

129：名無しの転生者 2016／6／17 6：26：22 ID：D6goZ3
j
o
y

調べてみたけど、転生先の世界に一致するワードは無かつたよ

131：名無しの転生者 2016／6／17 6：26：57 ID：pEeIqI
v
9
P

俺も、似たような単語は出てきたけど、ファーゼル王国に関しては情報0

136：名無しの転生者 2016／6／17 6：27：32 ID：JMVHRO
l
m
h

だとすると、イツチの情報頼りか

139：名無しの一般ヒューマン 2016／6／17 6：28：04 ID：0t
1 Y O r U 8 x

じやあ、とりあえず、今私が住んでいるのは、大陸一の農産国であるファーゼル王国、その王都近郊にある農村です。規模は並みより少し大きいぐらいで、さつき言つたモンスターが現れる事はたまにあります、基本巡回してくれている兵隊や、冒険者の方々が倒してくれます

141：名無しの転生者 2016／6／17 6：28：37 ID：a r y C o p
6 f f

兵隊、冒険者、治安は良い感じ？

146：名無しの一般ヒューマン 2016／6／17 6：29：15 ID：0 E
i 0 b U K E 4

治安は想像していた中世ファンタジーより、かなり良いですね。
とりあえず、いきなり山賊とか反乱軍に村が襲われるとかは、私が知る限りではない

ので

151：名無しの転生者 2016／6／17 6：29：54 ID：I O G P T Q
1 L 3

うわ……、びっくりするくらい治安良いじやん

152：名無しの転生者 2016／6／17 6：30：39 ID：t o g e X N
+ a Q

というか、さつき言つたモンスター。普通に倒せる人間が居るんだな

154：名無しの転生者 2016／6／17 6：31：11 ID：H 3 P W i P
+ p J

あ……

157：名無しの転生者 2016／6／17 6：31：49 ID：K C J 6 Z u

3 S B

魔境の住人は、更に魔境だつた……？

159 : 名無しの転生者 2016 / 6 / 17 6 : 32 : 26 ID : 760Wmd
4 a g

いや、まだだ。まだ慌てる時間じゃない。ただ、巡回してくれている連中が強いだけって話もある

162 : 名無しの転生者 2016 / 6 / 17 6 : 33 : 20 ID : BKawqC

Q L M

お、そうだな

165 : 名無しの一般ヒューマン 2016 / 6 / 17 6 : 34 : 15 ID : kn

V C G 5 f YE

⋮ 一般兵の方々です

168 : 名無しの転生者 2016 / 6 / 17 6 : 34 : 57 ID : 9HfQdT3
r c R

はい、魔境の住人は魔境でした。以上、閑廷解散！

172：名無しの転生者 2016／6／17 6 : 35 : 32 I D : H 2 a u y Q
6 d h

待つて、まだイツチ助かつてないの！

174：名無しの転生者 2016／6／17 6 : 36 : 15 I D : O f a D v 4
v a J

イツチなら大丈夫だつて

178：名無しの転生者 2016／6／17 6 : 36 : 36 I D : o K V g i W
7 Z m

7 Z m

180：名無しの一般ヒューマン 2016／6／17 6 : 37 : 13 I D : T r
17 Z t U u 0

あ、いえ、まったく大丈夫じゃないです。
下手したら、私殺されます

182：名無しの転生者 2016／6／17 6：37：56 ID：+yH0X5
i t z

ふあ？

186：名無しの転生者 2016／6／17 6：38：16 ID：ajS080
O 7 e

いきなり、事態が急変したぞ？

191：名無しの転生者 2016／6／17 6：39：11 ID：eLvEBs

J r v

つーか、殺されるつてどうしてよ？

195：名無しの一般ヒューマン 2016／6／17 6：39：54 ID：LZ
9 g X o g i 8

あの、私の転生先の世界で、転生者は厄介者、ところにより、見つけ次第殺せ！ レベルに嫌われてまして……

198 : 名無しの転生者
58k

2016 / 6 / 17

6 : 40 : 47

ID : z2rasc

え、なんで？

203 : 名無しの転生者
u d f

2016 / 6 / 17

6 : 41 : 27

ID : NijR9C

あ、俺何か分かる気がする……

206 : 名無しの転生者
A H O

2016 / 6 / 17

6 : 42 : 11

ID : PGYFj2

俺も……

209 : 名無しの転生者
x j r

2016 / 6 / 17

6 : 42 : 57

ID : slwdpl

お前ら、転生先で何した？

211 : 名無しの転生者
2016 / 6 / 17

6 : 43 : 30

ID : IAEqbg

ち、違うんですよ。俺のチート、段階的に解放されていくやつで、解放タイミングが最悪だつただけで……！

212：名無しの転生者 2016／6／17 6：44：19
A E k I D : Y c Y d / Z

俺も、あんな良い人達の居る国、滅ぼしたくなかった……！

214：名無しの転生者 2016／6／17 6：45：13
I D : E t b e l W

>>212 お前、ホント何した？

E s R

219：名無しの転生者 2016／6／17 6：45：35
I D : k X N B s V

/ e y

今は置いとけ。今はイツチだ

224：名無しの一般ヒューマン 2016／6／17 6：46：04
I D : 3 n

u v q f C k b

ええとですね、どうやらこの世界に転生してきた先達が、かなりやらかしてくれたらしく、大陸全土で転生者は嫌われてます。

救いは表だつて迫害はされてない事ですけど、これ本人が強いか弱いか分からぬからで、私弱いんで、転生者つてバレたら、最悪処刑もあり得たり……

226：名無しの転生者 2016／6／17 6：46：36 ID：jV35X1
k o P

イツチ、マジで詰んでる

231：名無しの転生者 2016／6／17 6：47：25 ID：EahuXP
R B 6

イツチ、とにかく現状疑われてる？

あと、誰かイツチが転生者だつて知ってる？

235：名無しの一般ヒューマン 2016／6／17 6：47：59 ID：tP

x I Z t c L g

両親と幼馴染みは、気付いています。

周りの人は、村の人達は薄々気付いていて、でも私だから大丈夫だつて

237：名無しの転生者 2016／6／17 6：48：40 ID：q3Sw8R
g o t

イツチ、とにかく俺達から言える事は、なにがなんでも自分の能力を隅から隅まで、本当に砂粒一つ残さず把握して、周りの人達に自分は危険な存在じやないつてアピールするんや

240：名無しの転生者 2016／6／17 6：49：18 ID：stKERd

3 h t

つまり、今まで通りに過ごしつつ、不足の事態に備えれ

243：名無しの一般ヒューマン 2016／6／17 6：49：57 ID：za

W W T e L X P
は、はい！

248：名無しの転生者 2016／6／17 6：50：36 ID：C/zN Rh
b W o

というか、その世界に転生した連中は、本当に何をやらかしたら、大陸全土でそんな事になるのよ？

250：名無しの転生者 2016／6／17 6：51：21 ID：B pO L U f

A 8 V
国でも滅ぼしたか？

252：名無しの転生者 2016／6／17 6：51：55 ID：p m J g f P

p k X
誠に申し訳ございませんでした

254：名無しの転生者 2016／6／17 6：52：16 ID：/ v V t b g

d W D

>>252 お前、ホントさあ……

259：名無しの一般ヒューマン 2016／6／17 6：52：56 ID：0v
 F a b ／ J 6 A

私の世界つて、わりと歴史が曖昧な部分が多くて、でも国が滅んだって話は、あまり聞きましたね

264：名無しの転生者 2016／6／17 6：53：26 ID：H S 7 I t M
 W 1 S

あまりつて事はある事はあるんだ

266：名無しの転生者 2016／6／17 6：54：07 ID：L B h E 3 N
 Y z O

はい、でも小さな国が戦争に負けたとか、王様が変わつて、国も変わつたみたいな話ですね

271：名無しの転生者 2016／6／17 6：54：38 ID：d z R N 3 I
 6 M r

よくある話つて言えば、よくある話か

他には？

273：名無しの転生者 2016／6／17 6：55：10 ID：sjy2mx
WeV

うーん、私が得られる情報はこれぐらいですね。王都の図書館にでも行けば、まだ分かる事もあるかもですけど、村から王都かなり距離があつて、最近モンスターも前に比べて出る様になつてるんで、護衛を頼むにもお金ががががが……！

278：名無しの転生者 2016／6／17 6：55：43 ID：5UZoY8
Hhw

あー、またよくある話だー

282：名無しの転生者 2016／6／17 6：56：06 ID：9pryn2
+vJ

まあ、歴史の転換期に何かやらかした奴らが居て、それが度々十多分だけど、よくあるチート転生者みたいに、調子に乗つて反感を買いまくつた奴らが居た

285：名無しの転生者 2016／6／17 6：56：33 ID：3Ba950
 4xC

もうホントさ、迷惑だからああいう連中を転生させるのやめてほしい

290：名無しの転生者 2016／6／17 6：57：10 ID：Dii/x a
 gDL

神様の都合上、そもそもいかんのだろうよ

292：名無しの転生者 2016／6／17 6：57：34 ID：qPvYQ4
 s x X

ああ、うん。なんか、色々ノルマ？みたいのあるつぽいしね

293：名無しの転生者 2016／6／17 6：58：22 ID：sFYXYU
 uV6

とりえずイツチ、イツチを転生させた神様、予想通りならマジのゴミクズ畜生だから、ガチで自分の能力と状況の把握と、情報収集は抜からないようになないと、明日にや死ぬとか有り得る

295 : 名無しの一般ヒューマン 2016 / 6 / 17 6 : 59 : 07 ID : TH
 L B J C N x q

え？ 良い人？ そうでしたけど……

297 : 名無しの転生者 2016 / 6 / 17 6 : 59 : 47 ID : gWddIn

あ、それ奴の常套手段

300 : 名無しの転生者 2016 / 6 / 17 7 : 00 : 12 ID : NgohYF

あのゴミクズカス野郎、そうやつてイツチみたいな子騙して遊んでんの

m y k 304 : 名無しの転生者 2016 / 6 / 17 7 : 00 : 50 ID : lBHCfg
 V B r

まあ、神様らしい神様って言つたらそれなんだけど、あのくそ野郎の都合で、転生させられた連中からしたら、マジゴミクズカスくそ野郎な訳で

309：名無しの転生者 2016／6／17 7：01：18 I D : o m E z y L
 Q O I

つまり、イツチ強く生きて

312：名無しの一般ヒューマン 2016／6／17 7：01：45 I D : I s
 v6P5v2z

嘘やん…

フアツ!?

ここは神様転生をくらつた哀れな子羊達の相互救済の場です。誹謗中傷はくそつた
れの神野郎に対してもみ行いましょう。

／
6 : 名無しの転生者 2016 / 6 / 23 6 : 43 : 00 ID : OdyKP3t1
誰か居るー?

14 : 名無しの転生者 2016 / 6 / 23 6 : 43 : 33 ID : v r j o t h K
7U

居るやで

17 : 名無しの転生者 2016 / 6 / 23 6 : 44 : 18 ID : l U d h O 56

+ t

過疎つても、やっぱり来ちゃうんだよなあ

M P 2 3 : 名無しの転生者 2 0 1 6 / 6 / 2 3
 I D : Y u A P I + L

最新のつて、イツチのやつだつけ？

m g 3 1 : 名無しの転生者 2 0 1 6 / 6 / 2 3
 6 : 4 5 : 1 1

そーそー、この前のイツチ

v z 3 5 : 名無しの転生者 2 0 1 6 / 6 / 2 3
 6 : 4 5 : 5 7

I D : V f i h 3 Q 4

v z

イツチ、大丈夫かな

4 0 : 名無しの転生者 2 0 1 6 / 6 / 2 3
 6 : 4 7 : 2 6

I D : E M l j m i Y

v z

多分、イツチ大丈夫だろ。多分だけど……

43：名無しの転生者 2016／6／23 6：48：08 ID：rfwqbve
XU

まあ、転生者が蛇蠍の如く嫌われる世界で、両親とその周りに恵まれてんだから、なかなか事は起こらんと思いたい

49：名無しの転生者 2016／6／23 6：48：40 ID：es7v3UH

nA

しかし、あの世界のパワーバランス、なんかおかしくない？

54：名無しの転生者 2016／6／23 6：49：26 ID：AyFj0BK
Mo

初見殺しに、並みのチートは価値も意味も無い。無双したけりや、ありふれ世界とか並みのチート引っ張つてこい。こんな感じの世界だつけ？

61：名無しの転生者 2016／6／23 6：50：15 ID：TtMX+Dm

／t

▽▽54 確証はないけど、明らかに殺しにきてるバランスなのは確か

6 8 : 名無しの転生者 2 0 1 6 / 6 / 2 3 6 : 5 1 : 0 6 I D : J J g u v j 2
h G

あれ？ ちょっとと思ったけど、転生者が嫌われるなら、召喚勇者とかそこら辺はどうなんだ？

7 6 : 名無しの転生者 2 0 1 6 / 6 / 2 3 6 : 5 1 : 4 6 I D : k u D H 0 c 5
m k

あ、 そう言えば そ う だ わ

8 0 : 名無しの転生者 2 0 1 6 / 6 / 2 3 6 : 5 2 : 4 0 I D : o O u P B B 3

+ c

召喚勇者は居ない、 とか？

8 6 : 名無しの転生者 2 0 1 6 / 6 / 2 3 6 : 5 3 : 2 3 I D : w v v J i 2 0
L g

にしては、 文明とか文化が進んでる風なイメージがあるな。 ほら、 イツチが言つてた

治安関係とかさ

87：名無しの転生者 2016／6／23 6：54：15 ID：g2N1hKa
EV

♪♪86 でも、治安云々は現地人でもどうにでも出来ね？

94：名無しの転生者 2016／6／23 6：55：09 ID：XJgz0PF
rK

♪♪87 それ言われたら弱いけど、あくまでイメージで捉えてくれ

100：名無しの転生者 2016／6／23 6：55：57 ID：NDh1nY
bPa

♪♪87 おけまる

108：名無しの転生者 2016／6／23 6：56：35 ID：3WnVB6
oue

しかし、イツチ来ないかな？

109 : 名無しの転生者 2016 / 6 / 23 6 : 57 : 13 ID : o d k h D 2
 60 /

イツチが来ないという事は、何も起きてないという事やで

110 : 名無しの転生者 2016 / 6 / 23 6 : 57 : 59 ID : o c i h Z Y
 5 y c
 もしくは、最悪……

114 : 名無しの転生者 2016 / 6 / 23 6 : 58 : 46 ID : E 5 q I m b
 x K b
 やめろ！ やめろー！

122 : 名無しの転生者 2016 / 6 / 23 6 : 59 : 33 ID : u Q D x q j
 O B H
 >>110 どうしてそんな事言つた?! 言え!!

125 : 名無しの転生者 2016 / 6 / 23 7 : 00 : 22 ID : C I O a e V
2 i 7

だけど、>>110 の言う事も分かるんだよ。あの世界、マジでそういう事があり得るみたいだし

131 : 名無しの転生者 2016 / 6 / 23 7 : 01 : 14 ID : C 2 u S 9 +

b F o

いや、さ。本当に何があつたら、そこまで嫌われるつてのもあるけどさ、あの世界に転生した奴でらこの掲示板使つてる奴居たか？

134 : 名無しの転生者 2016 / 6 / 23 7 : 01 : 59 ID : 3 + T y a F
j f S

知らん。というか、転生者全員が使つてる訳じやないし、全員が存在を知つてるつて訳でもないよな

143 : 名無しの転生者 2016 / 6 / 23 7 : 02 : 46 ID : 2 d N f P X
Z D S

そうだぞ。いやでも、そう言わると、転生者コロスベシレベルで嫌われる訳だから、一人や二人つて事でもないよな？

150：名無しの転生者 2016／6／23 7：03：21 ID：N9Bsrq
9 X m

あれ？ だとすると、あの世界の転生者つて、この基本サポートが特典に入つてないのか？

154：名無しの転生者 2016／6／23 7：04：03 ID：/tx5K7
z u a

いや、あのゴミカス畜生が、いくらクソゴミカスショーンベンハゲでも、転生特典を忘れるつて事はしない。というか、あいつは人格マジで終わつてるけど、仕事だけは確かだから……

カスガヨ

158：名無しの転生者 2016／6／23 7：04：50 ID：LGesyI
8 b y

>>154 本当にな。人格終わつたクソゴミカスショーンベンハゲ畜生だけど、やる事はきちんとやるゴミカスだから、余計に質が悪い。クソガヨ

166：名無しの転生者 2016／6／23 7：05：35 ID：/a6Qoa
d w l

だとすると、イツチだけが特典を得たというより、イツチだけがあのクソゴミカスショーンベンハゲ畜生に、目を付けられたとか、そんな感じか

169：名無しの転生者 2016／6／23 7：06：08 ID：OYQ/o c
B g l
イツチ、運悪すぎやない

170：名無しの転生者 2016／6／23 7：06：57 ID：suRdKZ
u P Q

周りの人達ガチャでレア引きまくつてるから、逆に運が良いまである

174：名無しの転生者 2016／6／23 7：07：39 ID：KOANC+

隣人ガチャで大爆死した身としては、死ぬほど羨ましい

179：名無しの転生者 2016／6／23 7：08：20 ID：17Im1I
r c V

>>174 涙拭けよ。俺もだ。

184：名無しの転生者 2016／6／23 7：09：13 ID：pn9o33
g3K

>>179 なんで、俺達こうなんだろうな。国を救おうとして、せつせと貯めた金はバカに使われて、助けようとした娘は、なんか訳の分かんない事言つてくるバカ姫に処刑されて、挙げ句の果てには逆賊扱いよ？

そりや、王族皆殺しにしますわ！

191：名無しの転生者 2016／6／23 7：09：56 ID：Wj0O4g
v Lk

大問題起こしてた

196：名無しの転生者

2016／6／23

7：10：48

ID：6q0QYd

Yj／

>>184

お前…：

203：名無しの一般ヒューマン

2016／6／23

7：11：42

ID：RA

KittyR

へるぶ

211：名無しの転生者

2016／6／23

7：12：20

ID：OlfsOp

イツチ？！

PqW

218：名無しの転生者

2016／6／23

7：12：53

ID：W1OOf

XgI
いきわれえ！

225：名無しの転生者 2016／6／23 7：13：31 ID:rvnntM7
 4 D q

待て、イツチどうした?

229：名無しの一般ヒューマン 2016／6／23 7：14：16 ID:Ni

L e b P V R B

戦争起きそう

235：名無しの転生者 2016／6／23 7：14：48 ID:Fg3wtG

b P F

ファツ?!

240：名無しの転生者

2016／6／23

7：14：48

ID:Fg3wtG

i 9 R

何故？ 一応は平和だつた筈じや…

244：名無しの転生者

2016／6／23

7：16：14

ID:XxxDov

i m G

イツチは関係してる？

253：名無しの一般ヒューマン 2016／6／23 7：16：55 ID：f7

q E B + Q Q Z

いえ、関係は無いです。けど、予想される戦地と村が、少し近いので巻き込まれるかもつて、村長が

あ、あ、あ、あ、あ、あ、ぜつがぐばだげびろ、げだの、に、…、…、！、！、

256：名無しの転生者 2016／6／23 7：17：30 ID：ZZfP4W
N 7 R

凄いな。全部濁点がついてて、イツチの怒りが伝わってくる

264：名無しの転生者 2016／6／23 7：18：08 ID：w1Nx2M
V B B

イツチ、兎に角戦うとか馬鹿な真似はしない方がいい

271：名無しの一般ヒューマン 2016／6／23 7：18：49 ID：mf
d 8 Z Q k b u

戦いませんよ。というか、現在、領主様の私兵に護衛されて、王都まで避難中です

275：名無しの転生者 2016／6／23 7：19：29 ID：h Y 2 g U L
2 B z

動き、速くない？

276：名無しの一般ヒューマン 2016／6／23 7：20：14 ID：g q
o p e q x V a

ファーゼル、駅馬車とか飛脚の為の情報網の確保の名目で、インフラがローマ並みに整っています。

私の村も、実は石畳が整備されてたりします

281：名無しの転生者 2016／6／23 7：20：54 ID：X H C 6 s 3
o T H

明らかに転生者か、召喚勇者の入れ知恵だー

285：名無しの一般ヒューマン 2016／6／23 7：21：37 ID：U/
p D v 9 h Ba

あ、そうじゃなくて、この国の宰相様が推奨して、工事を行つてゐるみたいです

287：名無しの転生者 2016／6／23 7：22：19 ID：e EuCh9
0 M n

え、宰相違うの？

289：名無しの転生者 2016／6／23 7：22：58 ID：x uw m 54
R i n

嘘だー、インフラ整備に気いまわすか？

292：名無しの一般ヒューマン 2016／6／23 7：23：48 ID：z 7
J 2 G j 1 9 p

何でも、何百年と生きたダーク・エルフの方らしくて、五、六代前の王様の時代から、宰相してゐるらしいです。

凄いですよ。ダーク・エルフって会うどころか、姿を見る事すら不可能に近いって言
われてる種族なのに

293：名無しの転生者 2016／6／23 7：24：35 ID：+bAelc
KVN

ナマ言つてすんませんした!!

300：名無しの転生者 2016／6／23 7：25：12 ID：4tzNb3

7jV

てのひらくくるボールベアリングやな

306：名無しの転生者 2016／6／23 7：25：48 ID：ggmGHZ

WOO

いや、でも政治体系として、一人が実権を何百年と握り続けるって、かなり危うくな
いか?

308：名無しの一般ヒューマン 2016／6／23 7：26：36 ID：e0

H i z R F A O

その辺りは私にはちょっと分かりませんが、実際問題として、国は問題無く回ってる
と、あの村近辺だけで判断するなら、そう感じますよ

312：名無しの転生者 2016／6／23 7：27：26 ID：EtG80Y
hTH

だとしたら、政に私情の一切を排除して、実利だけを追うタイプか？

313：名無しの転生者 2016／6／23 7：28：00 ID：KB2MjE
9nb

でもよ、人間は感情の生き物だから、あまり絞めすぎても、反発して要らん事してくるだろ。ソースは俺の世界

321：名無しの転生者 2016／6／23 7：28：36 ID：RIBhVf
GzU

他の世界とか、宰相云々は置いとくぞ。今はイツチだ。
イツチ、戦争つて何があつてそうなつたの？

イツチが戦地に行く可能性があるの？

322：名無しの一般ヒューマン 2016／6／23 7：29：14 ID：A E
F K v f R v b

戦争のきつかけは領地争いとか言つてました。あと、私は農民でしかないので、戦地に行く事は無いんですけど、ちょっとといきなりだつたんで……

328：名無しの転生者 2016／6／23 7：29：48 ID：+3ZZ9J

J V P

しゃーない。戦争とか言われたら、誰だつて慌てる

335：名無しの転生者 2016／6／23 7：30：28 ID：pZzplN

4 r a

しかし、魔境だけど平和っぽかつたんだけど、やつぱり起きるのね

338：名無しの転生者 2016／6／23 7：31：14 ID：Xzp/j8

R p u

まあ、人間居るなら争うよな

347：名無しの転生者 2016／6／23 7：31：46 ID：lwhOhh
I H 1

まあ、イツチが巻き込まれないならいいんだが、この話だけ聞いてると、戦争まで発展するのえらく早くないか？

352：名無しの転生者 2016／6／23 7：32：35 ID：yBМИFe
c e 5

確かに。イツチ、その辺どうなん？

354：名無しの一般ヒューマン 2016／6／23 7：33：19 ID：l3
N 8 s Y K Z J

私が聞く限りだと、何で戦争になつたのか分からないつて話ばかりで、何時からとかちよつと……

358：名無しの転生者 2016／6／23 7：34：02 ID：w s L 6／r

ZWD

まあ、イツチ一般農民やから仕方ないね

359：名無しの転生者 2016／6／23 7：34：51 ID：JVvYq+
P N g

領地争いって国同士？

でも、何で戦争になつたのか分からんなら、そうでもないのか？

362：名無しの転生者 2016／6／23 7：35：39 ID：btS7Tz
N f 6

確かに、国同士の領地争いなら、戦争になるだろうけど、まさか領主同士の領地争いで、ほいほい国家戦争になる訳ないわな

367：名無しの一般ヒューマン 2016／6／23 7：36：19 ID：Db
q9hsrHH

……追加情報です。どうやら隣国の隣接する領地同士の争いが、国家間戦争にまで発展したそうです……

372 : 名無しの転生者

2016 / 6 / 23

7 : 37 : 08

ID : +7ffI p

ZJJ

ん?

374 : 名無しの転生者

2016 / 6 / 23

7 : 37 : 45

ID : eQh85x

qL i

え? バカ? バカしかいなかつたの?

383 : 名無しの転生者

2016 / 6 / 23

7 : 38 : 35

ID : pLQ9hq

EzG

これは領地改易不可避

388 : 名無しの転生者

2016 / 6 / 23

7 : 39 : 28

ID : rQp+Ym

Ofl

領主一族縛り首決定

396：名無しの転生者 2016／6／23 7：40：03 ID：B n n d S O
c Y n

マジで何があつたし

399：名無しの一般ヒューマン 2016／6／23 7：40：41 ID：K X
T A M／V I j

情報が無いので、まだなんとも。でも、兵士の人の話だと、直接戦う事はまず無いだろうつて

406：名無しの転生者 2016／6／23 7：41：33 I D：C K B X b 9
r 5 w

それでも避難してるのは、万が一の可能性の回避か、それとも相手の国がそういう国か

407：名無しの転生者 2016／6／23 7：42：09 I D：E f 0 Q 2 N
z 3 t

そういうえばイツチ、相手国ってどんなの?

408：名無しの一般ヒューマン 2016／6／23 7：42：55 ID：nX
L o X 9 8 u r

隣国はレミエーレ王国と、もう一つカミナギ皇国。私の住むファーゼル王国を含めた三大国が、大陸の主な国になつてます。

あと、レミエーレは武力の国で、あつちの一般兵士一人が、ファーゼルの一般兵士五人分になるんだとか……

私、終わつた？

410：名無しの転生者 2016／6／23 7：43：30 ID：6CwQf
D N T

ギエピー！ 戦力比が酷すぎるッピ！

415：名無しの転生者 2016／6／23 7：44：21 ID：kdyIRD
k X h

なに？ 戰闘民族か何かなの？

417：名無しの一般ヒューマン 2016／6／23 7：44：54 ID：P3
 K w H o x D y

国的位置的に、私住む人界と魔属領の境にあるので、必然的に魔物と戦争が日常になつてゐる国です。

なので、住んでる人が自然と強くなるらしくて、うちはお得意の物量で押し切るしかないそうです

423：名無しの転生者 2016／6／23 7：45：36 ID：b7LqGp
 s u v

ファツ?!

427：名無しの転生者 2016／6／23 7：46：14 ID：FKFBte
 + V c

質より量か、量より質か

428：名無しの転生者 2016／6／23 7：46：57 ID：oZP5BP

4 L 7

イツチ、おとなしーく避難しな

437：名無しの転生者 2016／6／23 7：47：34 ID：8yQvS3
3jd

いや本当にマジでな

438：名無しの一般ヒューマン 2016／6／23 7：48：20 ID：OI
CAaUJPH

はい、だから折角なので王都観光しながら、この世界の情報集めたりしてみます。
あ、実況したりもあるかもです

443：名無しの転生者 2016／6／23 7：48：58 ID：BeacuM

Z6Q

おけおけ、楽しみ

447：名無しの転生者 2016／6／23 7：49：38 ID：hIEjHw
Idxd

無理しない程度でな

4 5 6 :名無しの転生者 2 0 1 6 / 6 / 2 3 7 : 5 0 : 2 9 I D : 2 H + f D p
Z W T

情報はしつかり集めな。

あと、妙に親しくしてくる奴は、九割ろくでなしから、そつこで逃げろ

4 6 2 :名無しの一般ヒューマン 2 0 1 6 / 6 / 2 3 7 : 5 1 : 0 2 I D : u 1

U H w 3 K g j

はい、あ、父が呼んでるので行きますね

4 6 4 :名無しの転生者 2 0 1 6 / 6 / 2 3 7 : 5 1 : 3 7 I D : c c + W U s
S x 3

おつー。

イツチ、無事でいてくれよ

4 6 5 :名無しの転生者 2 0 1 6 / 6 / 2 3 7 : 5 2 : 1 4 I D : T B B c / W

3 ZX

本当に良い子だから、俺らみたいな事にならないでほしい

466：名無しの転生者 2016／6／23 7：52：50 ID：RAO5hR
g g w

あー、本人にあまり名前出すなって言われてるけど、賢者ニキは頼れないのか？

475：名無しの転生者 2016／6／23 7：53：42 ID：HUCQtW
OZY

>>466 無茶言うなつて。賢者ニキ、案件抱えすぎて、悟り開いちやつたんだから……

475：名無しの転生者 2016／6／23 8：06：00 ID：ZrDqJk
hOm

でも、イツチ助けたくね？

他世界へのアクセス権限あるのニキだけだぞ？

481：名無しの転生者 2016／6／23 8：06：48 ID：A z1FBu
 uNK

んー、一応連絡方法知ってるから、情報は流しつくけど、期待はすんなよ

484：名無しの転生者 2016／6／23 8：07：26 ID：h3wA/A
 0Ih

当たり前

490：名無しの転生者 2016／6／23 8：08：11 ID：u57emk

0RR

当然だよなあ

495：名無しの一般ヒューマン 2016／6／23 8：08：37 ID：4c

X A 3 L A Z q

へるぶ。世界最強同士が戦うとか、オワタ案件が出てきた件について

497：名無しの転生者 2016／6／23 8：09：17 ID：G a S 07 p

t
B
a
ツ
?!?